

本書について

本書では、周辺機器の増設や、BIOS セットアップの操作方法など、ハードウェアに関する技術的な情報を説明しています。作業を行う場合は、本書の必要なページを印刷してご覧いただくことをお勧めします。

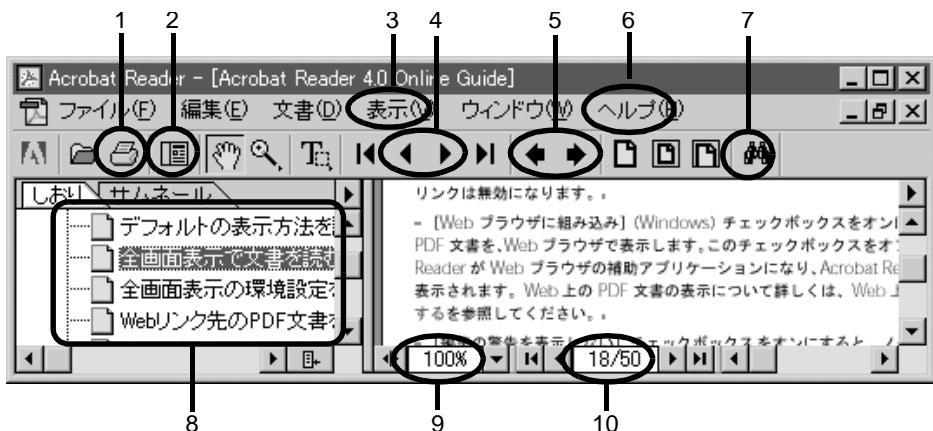
印刷にあたっては、プリンタとパソコン本体を接続する必要があります。プリンタの接続については、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。なお、このパソコンでプリンタをお使いになるうえでの注意事項がありますので、「[プリンタを接続する](#)」(▶ P.24) もあわせてご覧ください。

接続の前には必ず、パソコン本体、ディスプレイ、および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

本書の見かた（Acrobat Reader の使いかた）

ここでは、基本的なボタンの機能について説明します。

詳しくは、ヘルプをご覧ください。



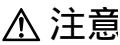
- 1 文書を印刷します。プリンタ名、印刷範囲、印刷部数などを指定し、「OK」をクリックします。ページ範囲を指定するときには、ウィンドウの最下行に「18/50」などと表示されているページ数を指定してください。本文のページ表記と違う場合がありますので、ご注意ください。
- 2 しおり / サムネールを表示または非表示にします。
- 3 文書の表示倍率などを設定します。
- 4 ◀で前のページに戻ります。
▶で次のページに進みます。
- 5 ◀で今まで表示した画面を逆戻りします。
▶でいったん逆戻りした画面を、一画面ずつ進めます。
- 6 Acrobat Reader のヘルプを表示します。「ヘルプ」メニュー 「Reader Guide」の順にクリックします。

- 7** キーワードを入力して文書内を検索できます。現在表示されているページから検索が始まります。
- 8** しおりの中から見たいタイトルをクリックすると、そのページを表示できます。
- 9** 拡大または縮小率を選択できます。
- 10** 表示しているページ数と全ページ数を表示します。

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様ご自身や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

	警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	で示した記号は、必ずしたがっていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	参照先を記述しています。
	ご覧になっていただきたいマニュアルを記述しています。
	CD-ROM を表しています。

コマンド入力（キー入力）について

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
↑ ↑

の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、（空白キー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

画面例およびイラストについて

- 表記されている画面は一例です。お使いの機種やモデルによって、画面が異なる場合があります。
- イラストは、装置によって異なる場合があります。また、本来接続されているケーブルなどを省略している場合があります。

製品などの呼びかたについて

本書では、製品などの名称を、次のように略して表記します。

正式名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system	Windows2000
Adobe® Acrobat® Reader 4.05	Acrobat Reader

商標および著作権について

Microsoft、Windows、MS、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

ディスプレイおよび内蔵モデムの取扱説明書について

本体に添付のディスプレイ、および内蔵モデムについては、それぞれの取扱説明書にも詳しい説明が記載されています。本書とあわせてご覧ください。

ディスプレイの取扱説明書

- …▶「[FMVDP84X6G 取扱説明書](#)」

内蔵モデムの取扱説明書

- …▶「[FMV-FX52Z1 取扱説明書](#)」

目次

本書について	1
本書の見かた (Acrobat Reader の使いかた)	1
本書の表記について	2
ディスプレイおよび内蔵モデムの取扱説明書について	3

第 1 章 はじめに

1 各部の名称と働き	8
パソコン本体前面	8
パソコン本体背面	10
パソコン本体内部	12
キーボード	13
マウス	16
2 画面の解像度と発色数について	17
表示できる解像度と発色数	17
解像度や発色数を変更する	18

第 2 章 周辺機器を使う

1 周辺機器を取り付ける前に	22
取り扱い上の注意	22
2 プリンタを接続する	24
必要なものを用意する	24
プリンタを接続する	25
プリンタを使うときの注意	26
3 デジタルカメラを使う	27
画像データの取り込みかた	27
デジタルカメラを接続する	28
4 スキャナを接続する	29
必要なものを用意する	29
スキャナを接続する	30
5 USB 機器を接続する	31
必要なものを用意する	31
USB 機器を接続する	32

6 ターミナルアダプタを接続する	33
必要なものを用意する	33
ターミナルアダプタを接続する	33
7 携帯電話や PHS を接続する	34
必要なものを用意する	34
携帯電話や PHS を接続する	35
携帯電話や PHS 用のモデムを選択する	36
8 本体力バーを取り外す	37
本体力バーを取り外す／取り付ける	38
フロントパネルを取り外す／取り付ける	40
9 メモリを増やす	42
メモリの取り付け場所	42
取り付けられるメモリ	43
メモリを取り付ける	44
10 拡張カードを増設する	51
代表的な拡張カードの種類	51
取り付けられる拡張カード	52
必要なものを用意する	53
拡張カードを取り付ける	53
11 ハードディスクを増設する	56
取り付けられるハードディスク	56
必要なものを用意する	58
内蔵ハードディスクを取り付ける	60
外付けハードディスクを取り付ける	71
ハードディスクの領域を設定する	73
フォーマットする	79
12 5インチフロントアクセスベイに周辺機器を取り付ける	83
13 その他の周辺機器を使う	87
MO（光磁気ディスク）ドライブを使う	87
複数のディスプレイを使う	88

第3章 BIOS セットアップ

1 BIOS セットアップとは	92
2 BIOS セットアップの操作のしかた	93
BIOS セットアップを起動する	93
設定を変更する	94
BIOS セットアップを終了する	96
3 ご購入時の設定に戻す	98
4 BIOS のパスワード機能を使う	100
パスワードの種類	100
パスワードを設定する	100
パスワードを忘れてしまったら	102
パスワードを変更／削除する	104
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	105
メッセージが表示されたときは	105
メッセージ一覧	105

第4章 技術情報

1 ハードウェアのお手入れ	110
パソコン本体／ディスプレイ／キーボード／スピーカーのお手入れ	110
マウスのお手入れ	111
フロッピーディスクドライブのお手入れ	112
索引	113

第1章

はじめに

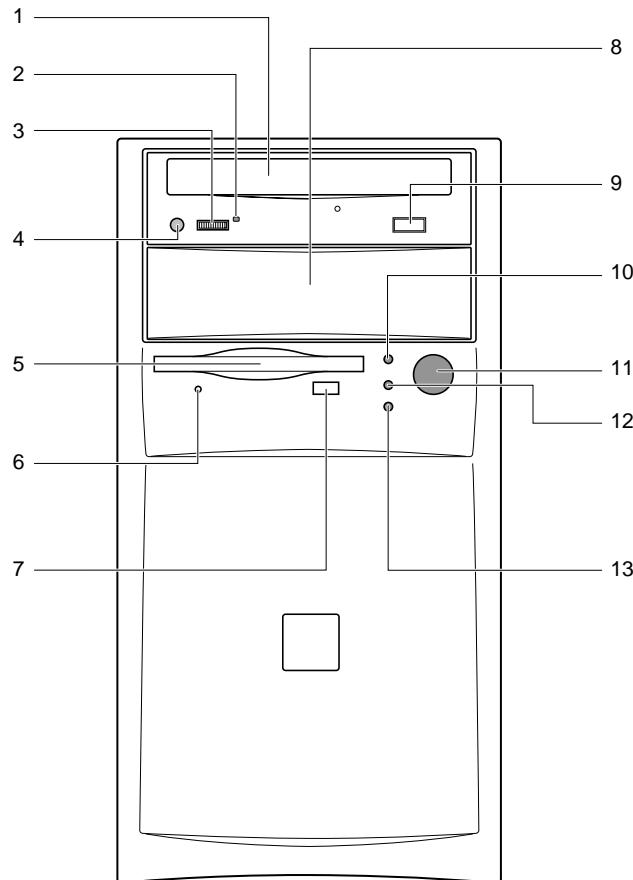
パソコン本体やキーボードなどの各部の名称について説明しています。

1 各部の名称と働き	8
2 画面の解像度と発色数について	17

1 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体前面、背面、内部、キーボード、マウスの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面



- 1 CD-R/RW ドライブ (ME4/535R) / CD-ROM ドライブ (ME4/535、ME4/535P)
CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽 CD を再生したりします。
また、ME4/535R では、CD-R や CD-RW にデータを書き込んだりします。

POINT

- ▶ CD-RW (CD-ReWritable)
CD-R (CD-Recordable) が一度だけ書き込み可能なのに対して、データの書き換えが可能な CD のことです。

2 BUSY ランプ

CD-ROM からデータを読み込んでいるときや、音楽 CD を再生しているときに点滅します。

3 ヘッドホンボリューム（音楽 CD 用）

ヘッドホン端子（音楽 CD 用）に接続したヘッドホンの音量を調整します。

4 ヘッドホン端子（音楽 CD 用）

市販のヘッドホンを接続します。CD-ROM の音声データはヘッドホンでは聞こえません。

5 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクをセットし、データを読み書きします。

6 フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

7 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。

8 5 インチフロントアクセスベイ

内蔵ハードディスクや、MO（光磁気ディスク）ドライブなどの周辺機器を取り付けます。

9 EJECT ボタン

CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブに、CD-ROM や音楽 CD をセットする、または取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

10 アクセス表示ランプ

ハードディスクのデータを読み書きしているときに点灯します。

また、CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、IDE 規格の内蔵周辺機器にアクセスしているときにも点灯します。

11 電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるときや、電源を切るときに押します。

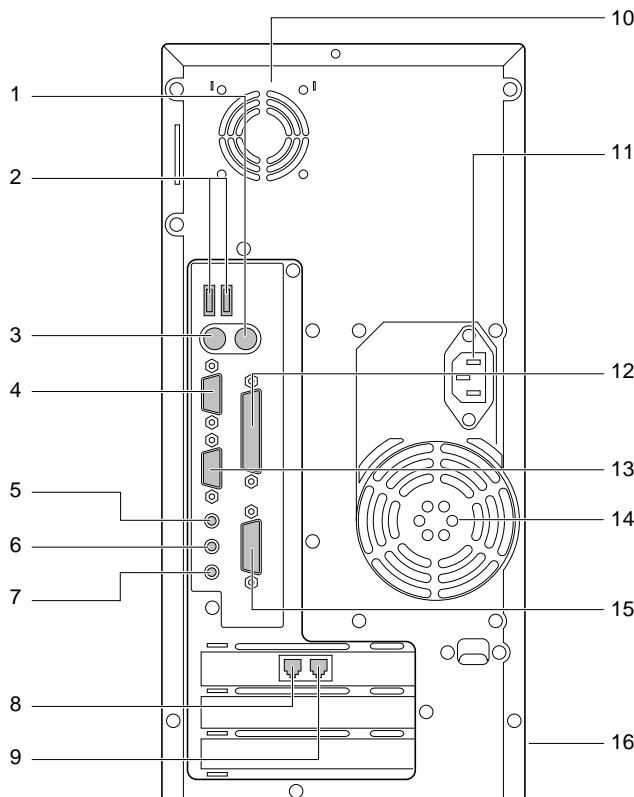
12 電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。

13 スタンバイランプ

スタンバイ中のときに、オレンジ色に点灯します。

パソコン本体背面



1 マウスコネクタ

マウスを接続します。

2 USB コネクタ

USB 機器を接続します。

3 キーボードコネクタ

キーボードを接続します。

4シリアルコネクタ (COM1)

デジタルカメラ、ターミナルアダプタなどの、RS-232C 規格に対応した機器のケーブルを接続します。D-SUB9 ピンのケーブルがお使いになれます。シリアルポートともいいます。

5 LINE OUT 端子

添付されているスピーカーを接続します。

6 LINE IN 端子

オーディオ機器などの音声出力端子と接続します。

7 マイク端子

添付のヘッドウォーンマイクのマイクプラグを接続します。

ME4/535P では、市販のコンデンサマイクを接続します。

8 LINE 端子

電話回線とつながるモジュラーケーブルを接続します。

9 PHONE 端子

電話機とつながるモジュラーケーブルを接続します。

10 通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。

ふさがないでください。

11 インレット

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

12 パラレルコネクタ

プリンタやスキャナなどのケーブルを接続します。

パラレルポートともいいます。

13 ディスプレイコネクタ

ディスプレイケーブルを接続します。

14 通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。

ふさがないでください。

15 MIDI/JOYSTICK 端子

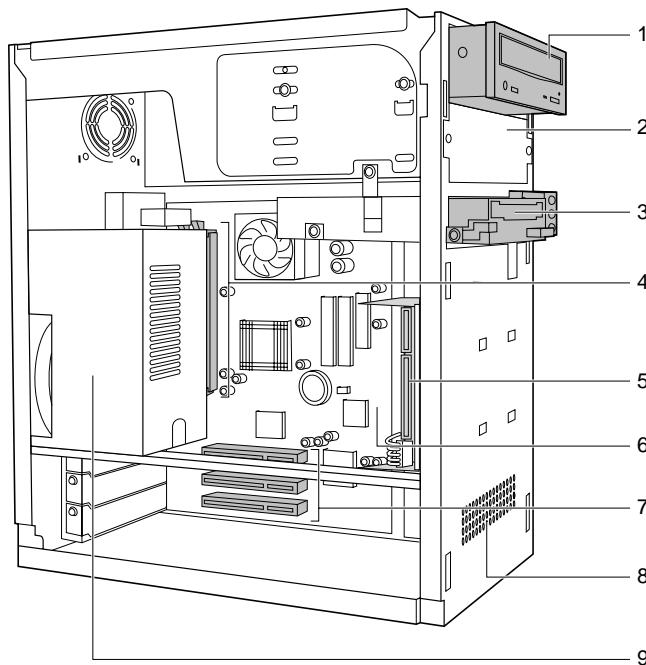
MIDI ケーブルやジョイスティックを接続します。

16 通風孔

本体カバーの側面に、パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部があります。

ふさがないでください。

パソコン本体内部



1 CD-R/RW ドライブ (ME4/535R) / CD-ROM ドライブ (ME4/535、ME4/535P)

ME4/535R には、ATAPI 規格の CD-R/RW ドライブが取り付けられています。

ME4/535、ME4/535P には、ATAPI 規格の CD-ROM ドライブが取り付けられています。

2 5 インチフロントアクセスペイ

内蔵ハードディスクや、内蔵 MO ドライブなどの周辺機器を取り付けるところです。

3 フロッピーディスクドライブ

3.5 インチ 3 モードフロッピーディスクドライブが取り付けられています。

4 メモリスロット

増設するメモリを取り付けられます。このパソコンには、あらかじめ 64MB のメモリが 1 枚取り付けられています。

5 内蔵ハードディスク

IDE 規格のハードディスクが取り付けられています。

6 3.5 インチ内蔵ベイ

増設する内蔵ハードディスクを取り付けるところです。

7 拡張スロット

パソコンの機能を増やすための拡張カードを取り付けるところです。

このパソコンには、あらかじめ FAX モデムカードが取り付けられています。

8 通風孔

パソコン本体内部の熱を逃がすための開孔部です。

ふさがないでください。

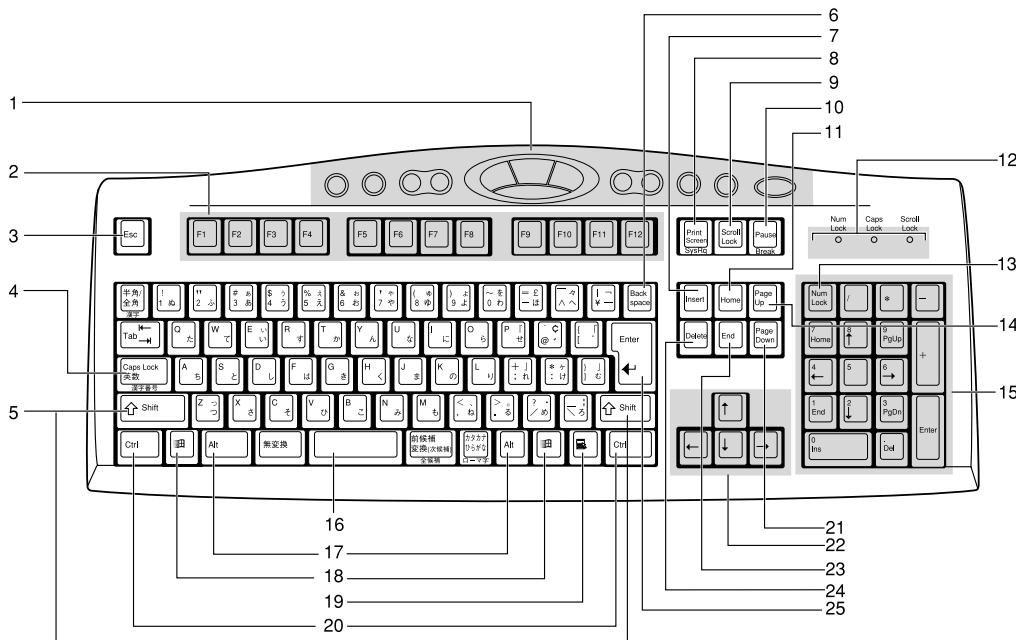
9 電源ユニット

キーボード

キーボードは、パソコンに対して指示を与え、実行させるために使います。

このパソコンでは、パソコン本体背面のキーボードコネクタ（[P.10](#)）に接続します。

お使いになるアプリケーションによって動作が異なることがあります。ここでは、各キーの役割や、キーを押したときの一般的な動作などを説明しています。



1 ワンタッチボタン

音楽CDの操作や音量調節、インターネットの接続を直接行えるボタンです。
パソコン本体の電源が入っているときに使えます。

2 F (ファンクション) キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 Esc (エスケープ) キー

作業を取り消すときに使います。

4 Caps Lock (キャップスロック) 英数キー

アルファベットを入力するときに、**Shift** を押しながらこのキーを押すと、大文字 / 小文字入力が切り替わります。

5 Shift (シフト) キー

他のキーと組み合わせて使います。このキーを押しながら文字キーを押すと、キーの上段に刻印されている文字や記号が入力できます。

6 Back space (バックスペース) キー

カーソルの左側の文字が削除されます。

7 Insert (インサート) キー

入力する文字の挿入 / 上書きを切り替えます。

8 Print Screen (プリントスクリーン) キー

画面表示をビットマップファイルとして保存するときに押します。

〔Alt〕を押しながらこのキーを押すと、アクティブウィンドウだけをビットマップファイルにできます。

キーを押したあとにペイントソフト（ペイントなど）を起動し、「編集」メニューの「貼り付け」などを選ぶことで編集、保存、印刷ができます。

9 Scroll Lock (スクロールロック) キー

画面がスクロールしないようになります。

10 Pause (ポーズ) キー

画面のスクロールが、一時的に止まります。

11 Home (ホーム) キー

カーソルが行の先頭に移動します。

〔Ctrl〕を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最初に移動します。

12 インジケータ

次のキーを押すと点灯し、各機能が使えるようになります。

再び押すと、消灯します。

• Num Lock : 

• Caps Lock :  を押しながら 

• Scroll Lock : 

13 Num Lock (ニューメリカルロック) キー

テンキーの機能に切り替わります。

14 Page Up (ページアップ) キー

前ページに切り替わります。

15 テンキー

Num Lock インジケータ点灯時に、数字や記号が入力できます。

Num Lock インジケータ消灯時は、キーワードに割り当てられた機能が使えます。

16 空白 (スペース) キー

空白が入力されます。

17 Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使います。

18 Windows (ウィンドウズ) キー

「スタート」メニューが表示されます。

19 Application (アプリケーション) キー

右クリックと同じ役割をします。

20 Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使います。

21 Page Down (ページダウン) キー

次ページに切り替わります。

22 カーソルキー

カーソルが上下左右に移動します。

23 End (エンド) キー

カーソルが行の最後に移動します。

【Ctrl】を押しながらこのキーを押すと、カーソルが文書の最後に移動します。

24 Delete (デリート) キー

カーソルの右側の文字が削除されます。

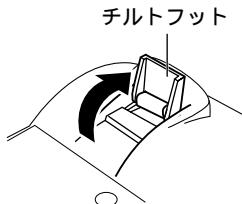
25 Enter (エンター) キー

入力した文字を確定するときなどに押します。

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

 **POINT**

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけて置くことができます。使いやすいほうをお選びください。

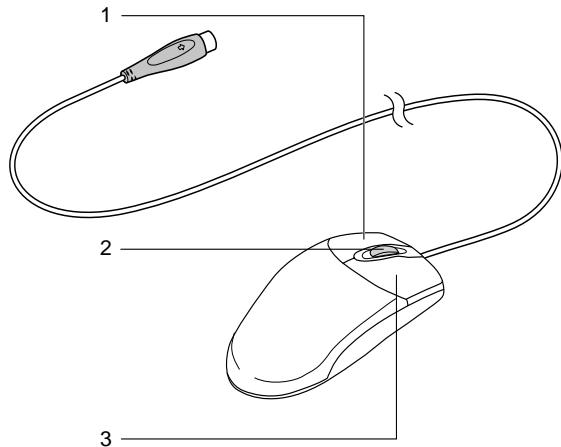


マウス

マウスは、画面の中の絵や文字を指して、パソコンに情報を伝えるための道具です。

パソコン本体背面のマウスコネクタ（[P.10](#)）に接続します。

スクロールボタンについては、『取扱説明書』をご覧ください。



1 左ボタン

クリックするとき押します。

2 スクロールボタン

画面をスクロールしたいときに、押したり回したりします。

3 右ボタン

右クリックするとき押します。

POINT

- ▶ 左右ボタンの役割を入れ替えることができます。
詳しくは、『ユーザーズガイド』の「Q&A」をご覧ください。
- ▶ マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールはクリーニングできます。詳しくは、「マウスのお手入れ」([P.111](#))をご覧ください。

2 画面の解像度と発色数について

解像度を高く（大きい数字に）すると画面を広く使えるようになります。多くのウィンドウを表示できます。発色数を増やすと画面に表示できる色数が多くなります。ここでは、画面の解像度や発色数の変更のしかたを説明します。

1024 × 768 の場合



800 × 600 の場合



表示できる解像度と発色数

このパソコンで表示できる解像度や発色数は次のとおりです。

△ 重要

- 次の表に書かれている以外の解像度ではお使いにならないでください。設定できる発色数は、画面の解像度によって異なります。解像度を高くすると、設定できる発色数は少なくなります。

○ POINT

- 解像度
縦横にどれだけの点（ドット）を表示できるかを示すものです。
- アプリケーションによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。

解像度	設定可能な発色数		
	256 色	High Color (16 ビット)	True Color (32 ビット)
640 × 480			
800 × 600			
1024 × 768			

- ・ は表示可能、 はご購入時の設定です。
- ・ High Color は約 6 万 5 千色、 True Color (32 ビット) は約 1677 万色です。
- ・ 16 色は、VGA モードのときのみお使いになれます。

解像度や発色数を変更する

☞ 重要

- ▶ 解像度、発色数の変更後には、再起動する必要があります。変更する前に作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了させてから変更してください。
タスクバーに常駐するタイプのアプリケーションも終了させてください。
- ▶ 解像度と発色数を変更する前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除してください。
1 「スタート」ボタン 「設定」 「アクティブデスクトップ」 「Web ページで表示」の順にクリックし、チェックマークを外します。
- ▶ 解像度、発色数の設定によっては、画面表示の調整が必要な場合があります。
詳しくは、「[FMVDP84X6G 取扱説明書](#)」をご覧ください。
- ▶ アプリケーションによっては、解像度や発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。お使いになるアプリケーションの動作環境を確認し、解像度や発色数を変更してください。
- ▶ 解像度を変更するときに、一時的に画面が乱れることがありますが、動作には問題ありません。

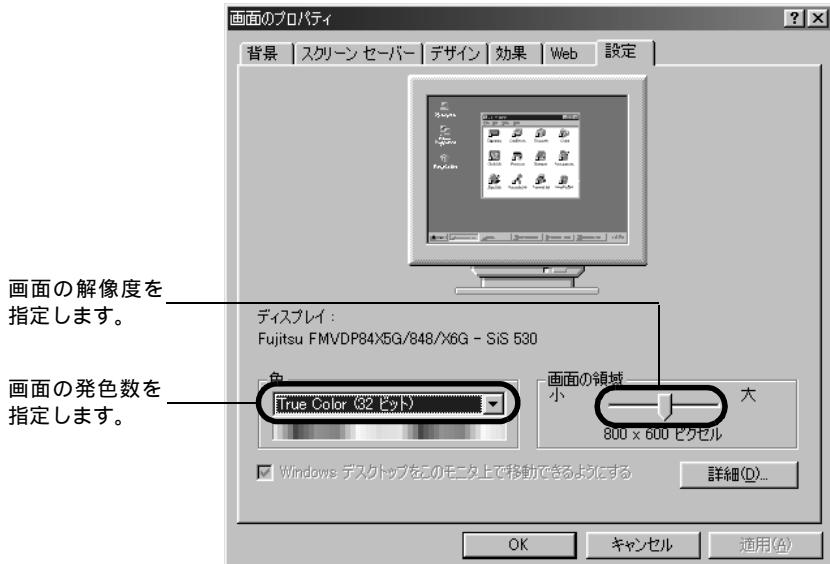
- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 2  (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。



4 解像度や発色数を変更します。

解像度を変更するには、「画面の領域」の  を左右にドラッグしてください。

発色数を変更するには、「色」の  をクリックし、一覧から設定したい発色数をクリックしてください。



POINT

- リフレッシュレートを設定してください。

リフレッシュレートの設定は、次の手順に従って行います。

1 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」をクリックします。
「SiS530 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「アダプタ」タブをクリックします。

3 「リフレッシュレート」が「最適」になっていることを確認します。
上記以外になっている場合は、右側の  をクリックし、選択します。

4 「OK」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

5 設定が終了したら「OK」をクリックします。

「OK」をクリックすると、画面にメッセージが表示されます。指示に従って操作してください。

POINT

- 「互換性の警告」ウィンドウが表示されたときは、「再起動しないで新しい色の設定を適用する」が  になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

6 「スタート」ボタン 「Windows の終了」の順にクリックします。

7 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。

第2章

周辺機器を使う

周辺機器の接続や使いかたについて説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	22
2 プリンタを接続する	24
3 デジタルカメラを使う	27
4 スキヤナを接続する	29
5 USB 機器を接続する	31
6 ターミナルアダプタを接続する	33
7 携帯電話や PHS を接続する	34
8 本体カバーを取り外す	37
9 メモリを増やす	42
10 拡張カードを増設する	51
11 ハードディスクを増設する	56
12 5インチフロントアクセスペイに周辺機器を取り付ける ...	83
13 その他の周辺機器を使う	87

1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器を取り付ける前に知っておいていただきたいことなどを説明します。

△ 警告



- 周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

△ 注意



- 周辺機器ケーブルは正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となることがあります。
- 周辺機器、および周辺機器ケーブルは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の周辺機器、および周辺機器ケーブルをお使いになると、故障の原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかつたり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、このパソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- Windows98 のセットアップは終了していますか？
セットアップを行う前にオプション品を取り付けると、セットアップが正常に行われないことがあります。
□『取扱説明書』をご覧になり、Windows98 のセットアップを行ってください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけに
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないことがあります。
- パソコンおよび接続されている機器の電源を切る
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は作業をしない
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと10分ほど待ってから作業を始めてください。
- 電源ユニットは分解しない
電源ユニットは、パソコン本体内部の背面側にある箱形の部品です。
- 内部のケーブル類や装置の扱いに注意
傷つけたり、加工したりしないでください。

- 静電気に注意

内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして、静電気を放電してください。

- 基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない

金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。

- 周辺機器の電源について

周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- ACPI に対応した周辺機器をお使いください

このパソコンは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）によって制御していますので、周辺機器も ACPI に対応していることが必要です。

ACPI に対応していない周辺機器をお使いの場合は、増設した機器やパソコンが正常動作しなくなることがあります。周辺機器が ACPI に対応しているかどうかは周辺機器の製造元にお問い合わせください。

- ドライバーを用意する

パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 プリンタを接続する

プリンタを使ってパソコンで作った年賀状、カード、企画書などをはがきや紙に印刷するためには、最初にプリンタとパソコンを接続する操作が必要になります。

必要なものを用意する

プリンタを接続するには、次のものが必要です。

- プリンタ

Windows98で動作可能なものをご用意ください。

- プリンタケーブル

プリンタとパソコンを接続するためのケーブルです。

パソコン本体のパラレルコネクタに接続するケーブルと、USBコネクタに接続するUSBケーブルがあります。

どのケーブルで接続するかは、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルをご覧になり、お使いのプリンタに対応したケーブルをご用意ください。

パラレルコネクタに接続するケーブルは、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」と書かれているものをご用意ください。

- プリンタドライバ

プリンタに添付されています。

プリンタドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT互換機用」と記載されたものをお使いください。

- プリンタのマニュアル

プリンタを接続する

パソコン本体側のコネクタの接続について説明します。

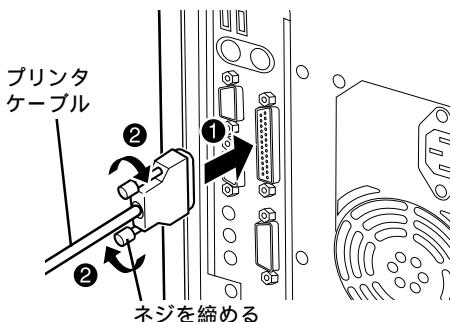
○ 重 要

- 接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

パラレルコネクタにケーブルを接続する場合

- パソコン本体背面のパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。

プリンタケーブルのコネクタの両側にあるネジを締めて、プリンタケーブルを固定してください。



- 初めて接続するプリンタの場合は、ドライバをインストールします。

USB コネクタにケーブルを接続する場合

パソコン本体の USB コネクタ (⇨ P.10) にケーブルを差し込みます。

詳しくは、「USB 機器を接続する」(⇨ P.31) をご覧ください。

プリンタを使うときの注意

● プリンタドライバのインストールについて

プリンタのマニュアルに「接続して電源を入れると自動的にドライバのインストールが始まります。」と記載されていても、お使いの環境によっては、プリンタのマニュアルに記載されている手順どおりに設定が進まないことがあります。そのときは、次の手順でドライバをインストールしてください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「プリンタ」の順にクリックします。
- 2 「プリンタの追加」をクリックします。
「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面の指示に従って、ドライバをインストールしてください。
 - Windows98 の CD-ROM を要求するメッセージが表示されたときは、「OK」をクリックしてください。「ファイルのコピー」ウィンドウが表示されます。
 - 「ファイルのコピー元」に c:\windows\options\cabs と入力し、「OK」をクリックしてください。
 - CD-ROM からプリンタドライバをインストールする場合に、ドライブ名を指定するときは次のように入力してください
e:
e には、お使いの CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブ名を入力してください。
- プリンタの設定について
接続したプリンタは、通常使うプリンタに設定してください。
- USB 接続について
お使いのプリンタが USB コネクタに接続できない場合、お使いのプリンタに合わせた USB 変換ケーブルを使って接続することもできます。USB 変換ケーブルには専用のドライバが添付されています。詳しくは、USB 変換ケーブルのマニュアルをご覧ください。
- スタンバイ状態について
お使いのプリンタが ACPI 対応していない場合は、スタンバイ状態から元の状態に戻ったときに、エラーメッセージが表示されるなどの動作異常が起こる場合があります。
その場合には、スタンバイ状態にならないよう、スタンバイ機能を設定してください。スタンバイ機能については、『取扱説明書』をご覧ください。

3 デジタルカメラを使う

デジタルカメラで撮影した、写真などの画像データをパソコンに取り込めば、画面上で自分だけの画像が楽しめます。

画像データの取り込みかた

デジタルカメラの画像データをパソコンに取り込むには、次のような方法があります。

- 専用ケーブルでパソコン本体とデジタルカメラを接続して画像データを転送する
パソコン本体のシリアルコネクタに接続するケーブルと、USB コネクタに接続する USB ケーブルがあります。
どちらのケーブルで接続するかは、デジタルカメラによって異なります。デジタルカメラのマニュアルをご覧になり、お使いのデジタルカメラに対応した方法をご確認ください。
また、画像データをパソコンに取り込むためのソフトウェアが必要になる場合もあります。
接続キットとしてケーブルに同梱されている場合もあります。
 - PC カードやフロッピーディスク、スマートメディアなどの記録メディアから、画像データを読み込む
記録メディアを直接パソコン本体にセットして画像データを読み込みます。
記録メディアをアダプタにセットしてからパソコンにセットしたり、カードリーダーなどを使って読み込んだりする場合もあります。
撮影した画像データを保存できる記録メディアは、デジタルカメラによって異なります。デジタルカメラのマニュアルをご覧になり、お使いのデジタルカメラに対応した方法をご確認ください。
- パソコンに画像データを取り込んだあと、撮影した画像データをパソコン画面上で整理したり、文字やイラストを入れたりする場合は、編集するためのソフトウェアが必要になります。
編集のためのソフトウェアは、デジタルカメラに添付されている場合もあります。
デジタルカメラの画像データの活用については、『ユーザーズガイド』の「楽しさ広がる FMV」をご覧ください。

デジタルカメラを接続する

パソコン本体側のコネクタについて説明します。

△重要

- 接続方法は、デジタルカメラによって異なります。デジタルカメラのマニュアルもあわせてご覧ください。

シリアルコネクタにケーブルを接続する場合

パソコン本体背面のシリアルコネクタ（[P.10](#)）にケーブルを差し込みます。

ケーブルのコネクタの両側にあるネジを締めて固定してください。

USB コネクタにケーブルを接続する場合

パソコン本体のUSBコネクタ（[P.10](#)）にケーブルを差し込みます。

詳しくは、「[USB機器を接続する](#)」（[P.31](#)）をご覧ください。

4 スキャナを接続する

スキャナを使って、お気に入りのイラストや写真をパソコンに取り込むためには、最初にスキャナとパソコンを接続する操作が必要になります。

必要なものを用意する

スキャナを接続するには、次のものが必要です。

- **スキャナ**

コピー機のように原稿をはさんで取り込むフラットベッド型のスキャナが一般的です。ほかにもハンディスキャナや、フィルムから直接写真を取り込めるフィルムスキャナなどがあります。

- **専用ケーブルまたは SCSI カードなど**

スキャナとパソコンを接続するために使います。どの方法で接続するかは、スキャナによって異なります。スキャナのマニュアルをご覧になり、お使いのスキャナに対応したものをご用意ください。

- **専用ケーブル**

パソコン本体のパラレルコネクタに接続するケーブルと、USB コネクタに接続する USB ケーブルがあります。

- **SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗（ターミネータ）**

SCSI 規格のスキャナを接続するために必要なものです。

終端抵抗（ターミネータ）は、内蔵されているものもあります。

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗（ターミネータ）については、「[SCSI 規格の内蔵／外付けハードディスクを増設する場合](#)」(▶ P.58) をご覧ください。

スキャナには TWAIN (トゥウェイン) という、画像をコンピュータに取り込むための規格があります。画像を加工するためのフォトレタッチソフトのほとんどは、この規格に対応しています。TWAIN 対応のスキャナをお使いになることをお勧めします。

- **スキャナのドライバ**

スキャナに添付されています。

スキャナのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

- **スキャナのマニュアル**

パソコンに画像データを取り込んだあと、取り込んだ画像の色を調整したり、画像を合成したり、自分の好きなファイル形式に変換したりする場合は、画像を加工するソフトウェア（フォトレタッチソフト）が必要になります。加工のためのソフトウェアは、スキャナに添付されている場合もあります。

スキャナを接続する

☞ 重要

- 接続方法は、スキャナによって異なります。スキャナのマニュアルもあわせてご覧ください。

専用ケーブルで接続する場合

パソコン本体側のコネクタについて説明します。

スキャナ側の接続についてなど、詳しくはお使いのスキャナのマニュアルをご覧ください。

- パラレルコネクタにケーブルを接続する

パソコン本体背面のパラレルコネクタ（[P.11](#)）にケーブルを差し込みます。

ケーブルのコネクタの両側にあるネジを締めて固定してください。

接続したあと、スキャナのドライバをインストールします。

- USB コネクタにケーブルを接続する

パソコン本体のUSBコネクタ（[P.10](#)）にケーブルを差し込みます。

詳しくは、「[USB機器を接続する](#)」（[P.31](#)）をご覧ください。

SCSI規格のスキャナと接続する場合

SCSI規格のスキャナとパソコンを接続する場合は、最初にSCSIカードという拡張カードをパソコン本体内部に取り付ける必要があります。

取り付けについては、SCSIカードのマニュアルもあわせてご覧ください。

1 SCSIカードを取り付けます。

「[拡張カードを増設する](#)」（[P.51](#)）

2 SCSIケーブルでスキャナとSCSIカードを接続します。

3 スキャナに終端抵抗（ターミネータ）を取り付けます。

内蔵されているものもあります。ディップスイッチなどで設定する必要がある場合もあります。

4 スキャナのドライバをインストールします。

5 USB 機器を接続する

USB 機器を接続して、自分の思いどおりのパソコンにしましょう。

必要なものを用意する

USB 機器を使うには、次のものが必要です。

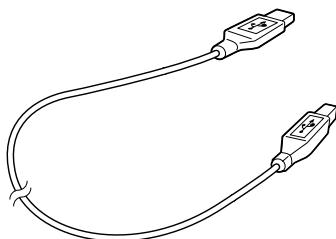
- USB 機器

USB 規格に対応している機器です。主に次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。

- マウス
- キーボード
- プリンタ
- ターミナルアダプタ
- スピーカー
- デジタルカメラ
- スキャナ
- 携帯電話 / PHS

- USB ケーブル

USB 機器とパソコンをつなぐケーブルです。USB 機器に添付されている場合もあります。マウスなどのようにケーブルが固定のものもあります。



- USB 機器のドライバ

通常は USB 機器に添付されています。

- USB 機器のマニュアル

USB 機器を接続する

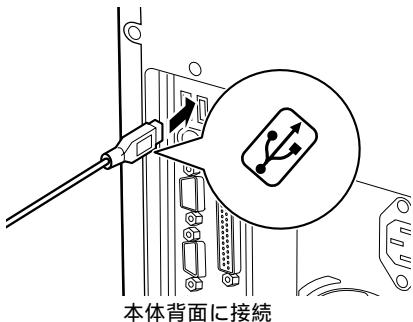
取り付けかたは、次のとおりです。

POINT

- ▶ USB 機器はパソコン本体の電源を切らなくても抜き差しすることができます。

- 1 パソコン本体背面の USB コネクタ([P.10](#))に USB 機器のケーブルを接続します。

USB 機器のケーブルのコネクタの  を右に向けて差し込んでください。



- 2 ドライバをインストールします。

ドライバをインストールしなくても、接続するだけで使える USB 機器もあります。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

6 ターミナルアダプタを接続する

ISDN 回線に接続して、もっと快適にネットワークを楽しみたい・・・そんなときはターミナルアダプタを接続します。
ISDN 回線に接続する方法については、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTT にお問い合わせください。

必要なものを用意する

ターミナルアダプタを使うには、次のものが必要です。

- ターミナルアダプタ

ISDN 回線に接続するために必要な機器です。

- 専用ケーブル

ターミナルアダプタとパソコンをつなぐケーブルです。パソコン本体背面のシリアルコネクタ（[P.10](#)）に接続するケーブルや USB コネクタ（[P.10](#)）に接続するケーブルなどがあります。通常、ターミナルアダプタに添付されています。添付されていない場合は、お使いになるターミナルアダプタに合ったケーブルをご購入ください。

- ターミナルアダプタのドライバ

ターミナルアダプタによっては、ドライバが必要なものがあります。ターミナルアダプタに添付されているドライバをご用意ください。

ターミナルアダプタのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

- ターミナルアダプタのマニュアル

ターミナルアダプタを接続する

パソコン本体側のコネクタについて説明します。

重要

- ▶ 接続方法は、ターミナルアダプタによって異なります。ターミナルアダプタのマニュアルもあわせてご覧ください。

シリアルコネクタにケーブルを接続する場合

パソコン本体背面のシリアルコネクタ（[P.10](#)）にケーブルを差し込みます。

ケーブルのコネクタの両側のネジを締めて固定してください。

USB コネクタにケーブルを接続する場合

パソコン本体の USB コネクタ（[P.10](#)）にケーブルを差し込みます。

「[USB 機器を接続する](#)」（[P.31](#)）をご覧ください。

ターミナルアダプタを ISDN 回線に接続するには、DSU（ディーエスユー）という機器が別に必要な場合もあります。また、パソコンで FAX を送受信するには、パソコン本体のモ뎀とターミナルアダプタをモジュラーケーブルでつなぐ必要があります。詳しくは、ターミナルアダプタのマニュアルをご覧になるか、NTT にお問い合わせください。

7 携帯電話やPHSを接続する

携帯電話やPHS(ピーエイチエス)を接続すると、近くに電話回線がなくても自由にインターネットやパソコン通信ができます。

パソコンと携帯電話やPHSを接続するには、接続ケーブル経由でUSBコネクタに接続する方法があります。

必要なものを用意する

- デジタル携帯電話またはPIAFS(ピアフ)対応のPHS
お使いになれる機種については、富士通パソコンホームページ「FM WORLD」
(<http://www.fmworld.net>)をご覧ください。
- 携帯電話接続用USBケーブル(別売)
デジタル携帯電話とパソコンを接続します。別売のFMV-CBL101をお使いください。
- PHS接続用USBケーブル(別売)
PHSとパソコンを接続します。別売のFMV-CBL102をお使いください。

POINT

- ▶ PIAFS(ピアフ)
PHS Internet Access Forum Standardの略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格です。PHSのデジタル通信回線(32/64Kbps)を利用して、非常に高速な通信が行えます。ただし、プロバイダやパソコン通信会社のアクセスポイントや端末もPIAFSに対応している必要があります。

重要

- ▶ 携帯電話やPHSの機種によっては、ディスプレイの近くでお使いになると、画面が乱れる場合があります。故障ではありません。その場合は、ディスプレイからできるだけ離してお使いください。画面への影響が軽減されます。

携帯電話や PHS を接続する

△ 注意

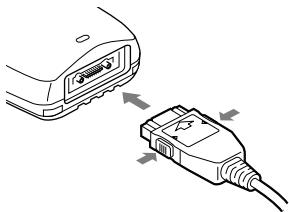


- ケーブルは本書および『アプリケーション CD2』の「¥Update¥Modem¥Fjusb」の中の readme.txt をよくお読みになり、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、パソコンおよび携帯電話や PHS が故障する原因となることがあります。

△ 重要

- ▶ 『アプリケーション CD2』の「¥Update¥Modem¥Fjusb」の中の readme.txt を必ずお読みください。
- ▶ 通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。
- ▶ PHS をケーブルに接続する場合は、Windows が起動した状態で行ってください。
- ▶ 通信するときは以下の事項に注意してください。
 - 本体内蔵モデムと同時に内蔵モードルーターと同時に使えない。
 - 通信中または通信アプリケーションを起動中には、スタンバイ機能は使えない。
 - USB コネクタに接続した携帯電話や PHS どうしての対向接続はできません。
 - AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
 - 電波状況によっては、通信が途中で切断される場合があります。

- 1 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話や PHS に接続します。**
コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



- 2 接続ケーブルのもう一方のコネクタを、パソコン本体背面のUSBコネクタに接続します。**
「USB 機器を接続する」(▶ P.31)

このあと、接続した携帯電話や PHS で通信するための設定を行ってください。

設定方法については、『インターネットガイド』の「携帯電話や PHS でインターネットに接続するには」をご覧ください。

POINT

- ▶ 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) を携帯電話から取り外す場合は、コネクタの両側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。
- ▶ PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) を PHS から取り外す場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

携帯電話や PHS 用のモデムを選択する

☞ 重要

- ▶ パソコンのご購入時には、携帯電話接続用 USB ケーブル、および PHS 接続用 USB ケーブルのドライバは、インストールされていません。
- 必ず⑩『アプリケーション CD2』の「¥Update¥Modem¥Fjusb」の中のドライバをインストールしてください。
- 別売のケーブルに、⑩『FMV-CBL101/FMV-CBL102 用ドライバ CD V1.0.01』が添付されている場合がありますが、使わないでください。
- 接続ケーブルをお使いになる前に、必ず⑩『アプリケーション CD2』の「¥Update¥Modem¥Fjusb」の中の readme.txt をお読みください。

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話または PHS によって異なります。携帯電話や PHS のマニュアルをご覧になり、お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

● 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) をお使いになる場合

携帯電話 / Doccimo のモード	モデム
携帯電話 (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC
携帯電話 (28800bps、パケット交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
Doccimo 携帯電話モード (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
Doccimo PHS (32K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
Doccimo PHS (64K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

● PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) をお使いになる場合

PHS のモード	モデム
NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

8 本体力バーを取り外す

パソコンの内部にいろいろな周辺機器を取り付けて、パソコンをパワーアップすることができます。

本体力バーは、次の作業を行うときに取り外します。

- メモリを取り付けるとき
- 拡張カードを取り付けるとき
- 内蔵ハードディスクを取り付けるとき
- 5インチフロントアクセスペイに内蔵周辺機器を取り付けるとき
- BIOS のパスワード機能を使うとき

△ 警告



- 本体力バーを取り外すときまたは取り付けるときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。



- 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

△ 注意



- 本体力バーを取り外すときまたは取り付けるときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

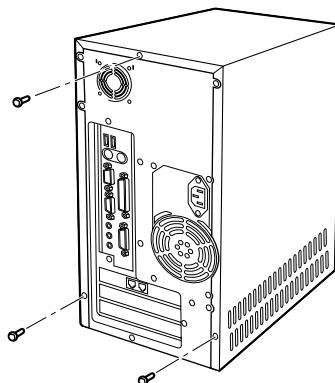


- 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

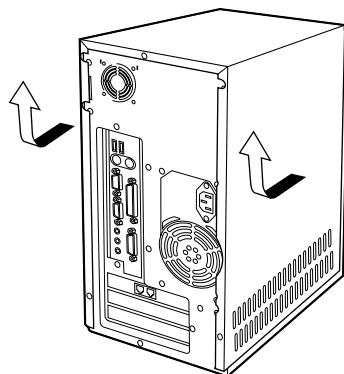
本体力バーを取り外す／取り付ける

本体力バーを取り外す

- 1 パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、すべての電源プラグをコンセントから抜きます。
電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切ったあと10分ほど待ってください。
- 2 パソコン本体背面のネジ（3ヶ所）を外します。



- 3 本体力バーを矢印の方向に取り外します。
パソコン本体背面に向けてスライドさせたあと、持ち上げてください。

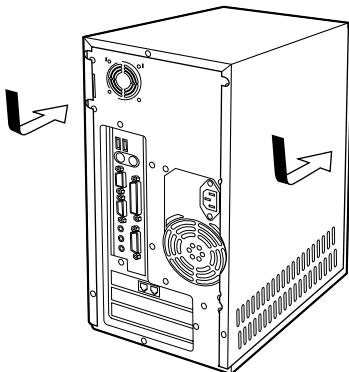


- メモリを取り付ける場合...「[メモリを取り付ける](#)」手順2（[P.44](#)）
- メモリを交換する場合...「[メモリを交換する](#)」手順2（[P.48](#)）
- 拡張カードを取り付ける場合...「[拡張カードを取り付ける](#)」手順2（[P.54](#)）
- IDE 規格の内蔵ハードディスクを増設する場合...「[3.5インチ内蔵ベイに取り付ける](#)」手順2（[P.62](#)）
- SCSI 規格の内蔵ハードディスクを増設する場合...「[SCSI規格の内蔵ハードディスクを取り付ける](#)」手順3（[P.70](#)）

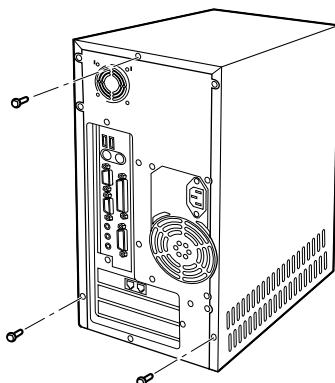
- 5インチフロントアクセスペイに内蔵ハードディスクを取り付ける場合...「[5インチフロントアクセスペイに取り付ける](#)」手順8([P.65](#))
- 5インチフロントアクセスペイに内蔵周辺機器を取り付ける場合...「[5インチフロントアクセスペイに周辺機器を取り付ける](#)」手順2([P.83](#))
- ジャンパスイッチを変更する場合...「[ジャンパスイッチを変更する](#)」手順2([P.103](#))

本体カバーを取り付ける

- 1** 本体カバーを取り付けます。
パソコン本体前面に向けてスライドさせます。



- 2** パソコン本体背面のネジ(3ヶ所)を取り付けます。
ネジは固く締めすぎないようにしてください。



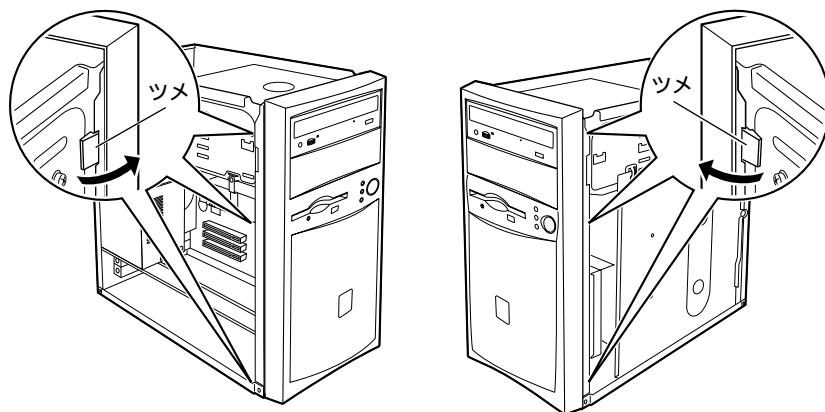
- 3** パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。
- メモリを取り付けた場合 / 交換した場合...「[メモリ容量を確認する](#)」([P.47](#))
 - 内蔵ハードディスクを増設した場合...「[ハードディスクの領域を設定する](#)」([P.73](#))
 - 拡張カードを取り付けた場合...「[拡張カードを取り付ける](#)」手順6([P.55](#))

フロントパネルを取り外す／取り付ける

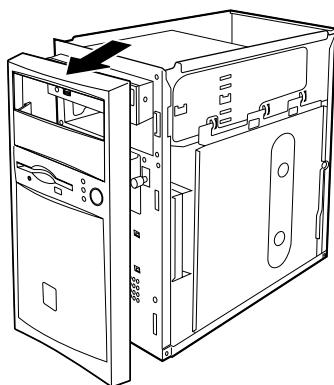
フロントパネルは、5インチフロントアクセスペイに内蔵ハードディスクや内蔵周辺機器を取り付けるときに取り外します。

フロントパネルを取り外す

- 1 フロントパネルの両側にあるツメ（片側3ヶ所ずつ計6ヶ所）を外します。下のツメから外すと、フロントパネルが取り外しやすくなります。



- 2 フロントパネルを取り外します。

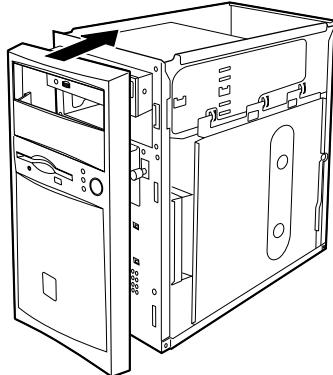


- 5インチフロントアクセスペイに内蔵周辺機器を取り付ける場合...「[5インチフロントアクセスペイに周辺機器を取り付ける](#)」手順3 (▶ P.83)

フロントパネルを取り付ける

1 フロントパネルを取り付けます。

両側にあるツメ（片側3ヶ所ずつ計6ヶ所）を、パチンと音がするまではめ込みます。



- 5インチフロントアクセスペイに内蔵周辺機器を取り付けた場合...「[5インチフロントアクセスペイに周辺機器を取り付ける](#)」手順10（☞P.85）

9 メモリを増やす

「複数のアプリケーションを起動したら、パソコンの動作が遅くなった」「大きなファイルを使おうとするとメモリ不足と表示されてしまう」

このような場合はパソコンのメモリを増やすと、パソコンの処理がより快適になります。

☞ 重要

- ▶ このパソコンには、処理速度を速くするためにキャッシュメモリが取り付けられています。キャッシュメモリは、ご購入時に取り付けられているメモリ（64MB）に対してのみ働き、増やしたメモリに対しては働きません。
そのため、メモリを増やすと、お使いのアプリケーションによってはパソコンの動作が遅くなることがあります。
キャッシュメモリについては、次のPOINTの「キャッシュメモリ」をご覧ください。

○ POINT

- ▶ キャッシュメモリ
CPUがデータを処理するには、まずメモリからデータを読み込み、次に読み込んだデータに対して、計算したり命令したりします。
このとき、通常のメモリにデータがあると、計算や命令するスピードは速いのに、メモリからデータを読み込むのに、少し時間がかかってしまいます。
そこで高速に読み書きできるキャッシュメモリにデータを蓄えておいて、CPUからキャッシュメモリのデータを読み込めば、読み込みに時間がかかりず、データを処理する速度は速くなります。

メモリの取り付け場所

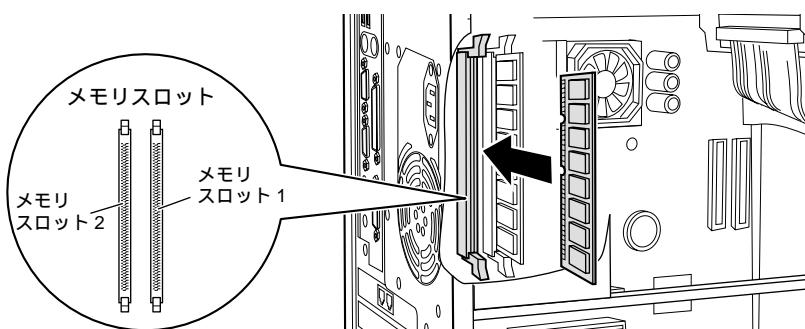
メモリは、パソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。

このパソコンのご購入時は、メモリスロット1に64MBのメモリが1枚取り付けられています。

メモリ容量を増やすには、メモリスロット2に、新たにメモリを取り付けます。

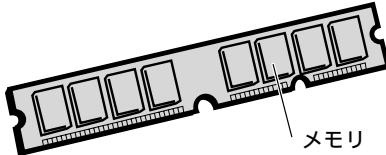
メモリは最大256MB（128MB×2枚）まで増やせます。

メモリを最大容量まで増やしたいときは、あらかじめ取り付けられているメモリ（メモリスロット1）を取り外して交換します。



取り付けられるメモリ

お使いになれるメモリは次の種類です。



- 種類 : SDRAM (エスディーラム)
DIMM (ディム)(SPD付き)
- システムバスクロック : 100MHz
- ピン数 : 168 ピン
- 容量 : 64MB、128MB
- ECC : なし

△ 重 要

- ▶ メモリのシステムバスクロックにご注意ください。
パソコンに取り付けるメモリは、100MHz 対応のものをお使いください。

○ POINT

- ▶ SPD (エスピーディー)
Serial Presence Detect の略で、メモリの機能のひとつです。
必ず SPD 付きのメモリをご購入ください。なお、弊社製の SDRAM は、SPD 付きです。
- ▶ ECC (イーシーシー)
Error Correcting Code の略で、データの中の誤りを検出し、訂正する機能のことです。
このパソコンでは、この機能は使いません。

メモリの組み合わせ表

次の表で、メモリの容量とメモリスロットの組み合わせを確認してください。
表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しない場合があります。

総容量	メモリスロット 1	メモリスロット 2
64MB (ご購入時)	64MB	なし
128MB	64MB	64MB
192MB	64MB	128MB
256MB (最大)	128MB	128MB

: パソコンにあらかじめ取り付けられているメモリを交換します。

メモリを取り付ける

ここでは、メモリを取り付ける方法を説明します。

あらかじめ取り付けられているメモリを、大容量のメモリに交換するときは、「[メモリを交換する](#)」([P.48](#))をご覧ください。

⚠ 警告



- メモリの取り付けまたは交換を行うときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- メモリの取り付けまたは交換を行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



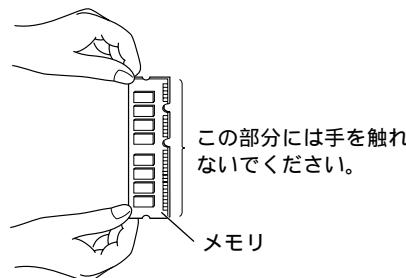
- 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のメモリをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。

⚠ 重要

- 放電してから作業してください。メモリは人体にたまる静電気によって悪影響を受けます。
取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして、静電気を放電してください。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは下図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

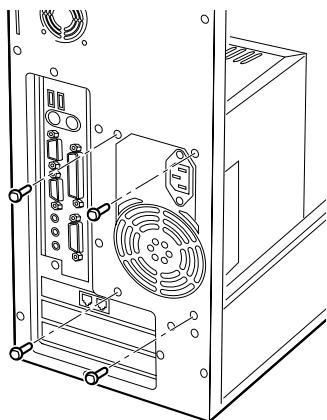


1 「[本体力バーを取り外す](#)」([P.38](#))をご覧になり、本体力バーを取り外します。

2 パソコン本体の電源ケーブルを取り外します。

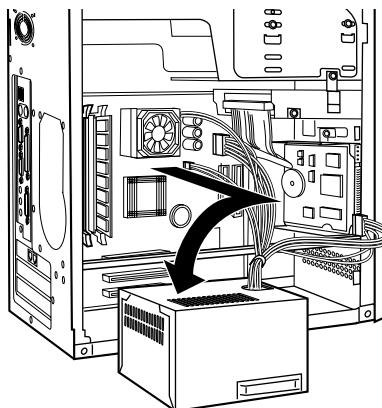
電源ケーブルの根元を持ち、引き抜きます。

- 3** 電源ユニットが落ちないように手でおさえながら、パソコン本体背面のネジ(4ヶ所)を外します。



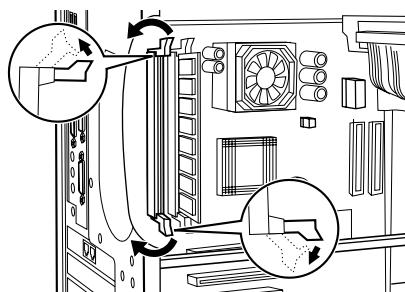
- 4** パソコン本体内部への電源ケーブルの出口が上に来るように、電源ユニットを置きます。

メモリスロットの位置を確認し、メモリを取り付けるときに邪魔にならない場所に置いてください。



- 5** メモリを取り付けるメモリスロットの両側のレバーを外側に開きます。

メモリの取り付け場所については、「[メモリの取り付け場所](#)」(…▶P.42)をご覧ください。
メモリの容量と組み合わせについては、「[メモリの組み合わせ表](#)」(…▶P.43)をご覧ください。

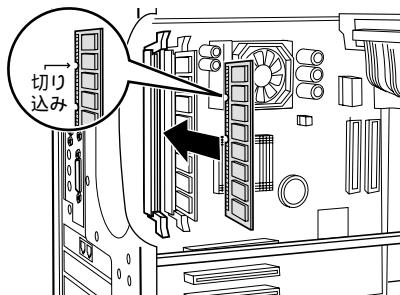


6 メモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を上側にして、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

必ず、メモリがロックされたことを確認してください。

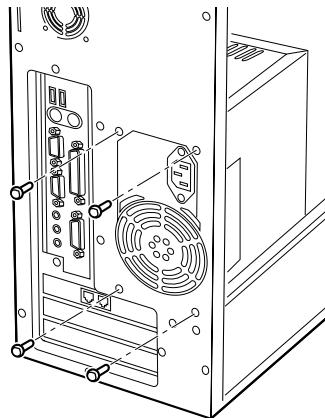


重要

- ▶ メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください。
無理に差し込むと故障の原因となります。

7 電源ユニットを元の位置に合わせ、パソコン本体背面のネジ（4ヶ所）を取り付けます。

ネジは固く締めすぎないようにしてください。



8 電源ケーブルを、パソコン本体背面のインレット（[P.11](#)）に接続します。

□『取扱説明書』をご覧になり、正しく接続してください。

9 「本体力カバーを取り付ける」（[P.39](#)）をご覧になり、本体力カバーを取り付けます。

このあとは、「メモリ容量を確認する」（[P.47](#)）をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けたあと、増やしたメモリがパソコンで使える状態になっているかを確認してください。必ず、本体カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

- 1 ディスプレイの電源を入れ、次にパソコン本体の電源を入れます。

POINT

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、パソコンの電源を入れたとき画面に何も表示されない場合があります。
その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けてパソコンの電源を切り、ディスプレイの電源を切ってメモリを取り付け直してください。
メモリの取り外しかたについては、「[メモリを交換する](#)」([P.48](#))をご覧ください。

- 2 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。

- 3  (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 4 で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかを確認します。



画面は、64MBのメモリを増設して、128MBに増やした例です。

画面表示用に4MB使いますので、4MB少なく表示されます。

お使いのシステム構成によってはさらに1MB少なく表示される場合があります。

- 5 「OK」をクリックします。

- 6 「コントロールパネル」ウィンドウの  をクリックします。

メモリ容量の数値が増えていなかった場合は、次のことを確認してください。

- 増やしたメモリがこのパソコンで使える種類のものか...「[取り付けられるメモリ](#)」([P.43](#))
- メモリがメモリスロットにきちんと差し込まれているか...「[メモリを取り付ける](#)」([P.44](#))
- 正しいスロットに取り付けられているか...「[メモリの取り付け場所](#)」([P.42](#))
- メモリを正しく組み合わせているか...「[メモリの組み合わせ表](#)」([P.43](#))

メモリを交換する

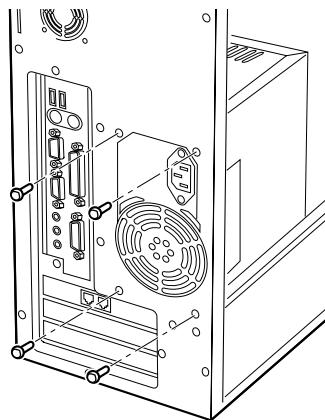
このパソコンに取り付けられているメモリを取り外し、より大容量のメモリに交換することができます。

1 「[本体カバーを取り外す](#)」([P.38](#))をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 パソコン本体の電源ケーブルを取り外します。

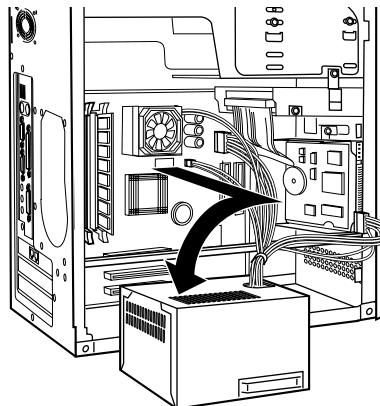
電源ケーブルの根元を持ち、引き抜いてください。

3 電源ユニットが落ちないように手でおさえながら、パソコン本体背面のネジ(4ヶ所)を外してください。



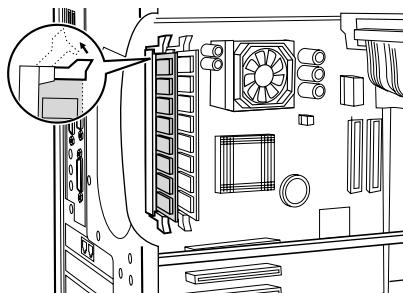
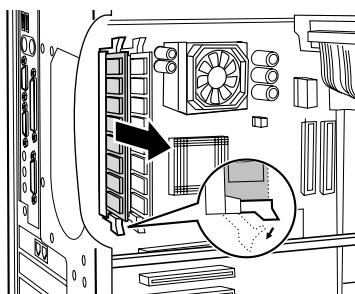
4 パソコン本体内部への電源ケーブルの出口が上に来るように、電源ユニットを置きます。

メモリスロットの位置を確認し、メモリを取り付けるときに邪魔にならない場所に置いてください。



5 取り外したいメモリのメモリスロットの上のレバーを外側に開きます。

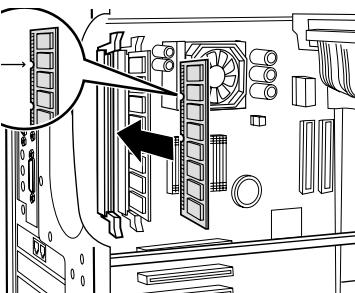
メモリの上半分が外れて、メモリスロットに斜めに差し込まれている状態になります。

**6** メモリが落ちないように手で押さえながら、メモリスロットの下のレバーを外側に開き、メモリを抜きます。**7** 新しいメモリをメモリスロットに差し込みます。

端子に切り込みが入っている方を上側にして、メモリスロット正面からまっすぐに差し込んでください。

メモリがメモリスロットに差し込まれると、スロット両側のレバーが自動的に閉じて、メモリがロックされます。

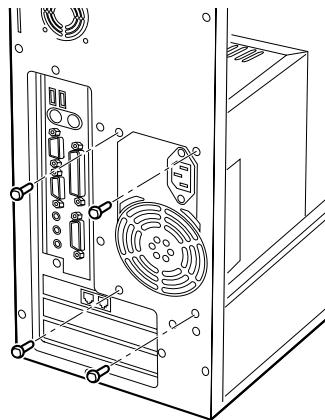
必ず、メモリがロックされたことを確認してください。



重 要

- ▶ メモリの方向をよく確認して正しく差し込んでください。無理に差し込むと故障の原因となります。

- 8** 電源ユニットを元の位置に合わせ、パソコン本体背面のネジ（4ヶ所）を取り付けます。
ネジは固く締めすぎないようにしてください。



- 9** 電源ケーブルを、パソコン本体背面のインレット（[P.11](#)）に接続します。
『取扱説明書』をご覧になり、正しく接続してください。
- 10** 「本体力バーを取り付ける」（[P.39](#)）をご覧になり、本体力バーを取り付けます。

このあとは、「メモリ容量を確認する」（[P.47](#)）をご覧になり、交換したメモリが使える状態になっているかを確認してください。

10 拡張カードを増設する

パソコンにさまざまな機能を追加したいときは、拡張カードを取り付けます。ここでは、パソコンに取り付けられる拡張カードにはどのようなものがあるか、拡張カードを取り付けるために必要なものや、必要な作業について説明します。

代表的な拡張カードの種類

代表的な拡張カードには、次のものがあります。

- SCSI カード

SCSI 規格の MO (光磁気ディスク) ドライブやハードディスク、スキャナなどを接続するときに必要な拡張カードです。SCSI 規格のハードディスクについては、「[ハードディスクを増設する](#)」(▶ P.56) をご覧ください。

- モデムカード

パソコン通信、インターネット、FAX 送受信などを行うときに必要な拡張カードです。また、ボイス機能を備えているモデムカードは、留守番電話としてお使いになれます（専用のソフトウェアが必要です）。

このパソコンには、ご購入時にあらかじめ FAX モデムカードが取り付けられています。

- LAN カード

複数台のパソコンやプリンタなどを接続し、データを転送したり共有したりするときに必要な拡張カードです。LAN カードでパソコンやプリンタを接続するには、LAN ケーブルなどの LAN 機材も必要となります。

- ビデオキャプチャカード

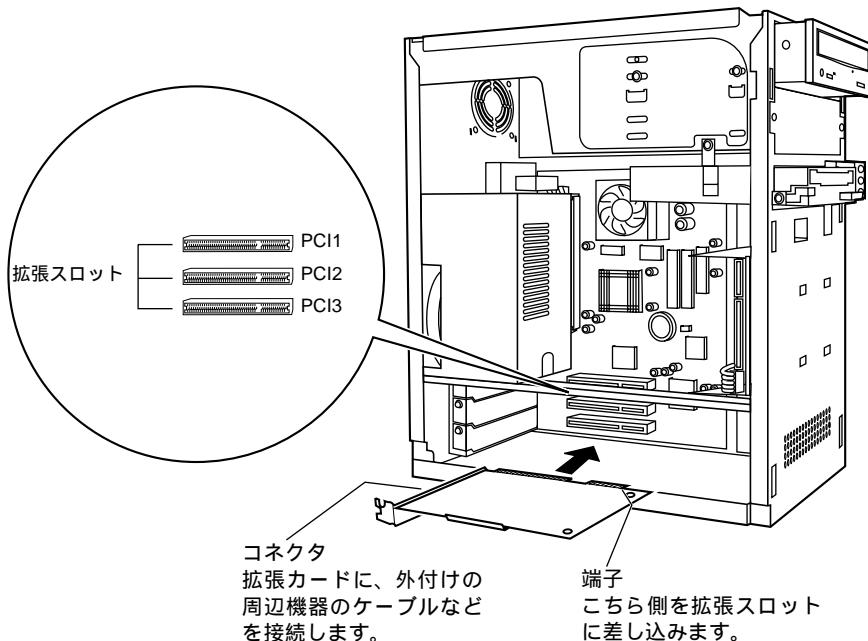
このカードを使うと、ビデオの画像をパソコンのディスプレイに表示したり、画像をデータとして取り込んで加工できるようになります。カードによって、静止画だけを扱えるものと、静止画と動画の両方を扱えるものがあります。

取り付けられる拡張カード

拡張カードには、いくつかの規格があります。このパソコンでは、PCI（ピーシーアイ）という規格に対応した拡張カードがお使いになれます。

拡張カードは、パソコン本体内部の空いている「拡張スロット」に取り付けます。

拡張カードの大きさには、大きく分けて「フルサイズ」と「ハーフサイズ」の2つがあります。このパソコンでは、ハーフサイズの拡張カードのみ増設できます。



拡張スロットは、上から順に PCI1、PCI2、PCI3 となっています。

拡張スロット	空き状況	取り付け可能なサイズ
PCI1	FAX モデムカードを搭載済み	-
PCI2	空き	ハーフサイズ
PCI3	空き	ハーフサイズ

：各スロットとも取り付け可能な拡張カードの長さは最大 10inch (約 25.4cm) です。

拡張カードには、「プラグアンドプレイ」というしくみに対応しているものと、対応していないものがあります。このパソコンで使える PCI 規格の拡張カードはプラグアンドプレイに対応しています。

プラグアンドプレイに対応している PCI 規格の拡張カードを増設するときは、拡張カードを取り付けて、ドライバをインストールするだけで使えるようになります。

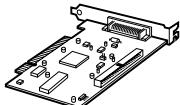
POINT

- ▶ お使いになる拡張カードが必要とするリソースが、このパソコンの空いているリソースに設定できない場合や、空きリソースがない場合は、拡張カードを取り付ける前に設定が必要です。

必要なものを用意する

拡張カードを増設するには、次のものが必要です。

- PCI 規格の拡張カード



- 拡張カードのドライバ

拡張カードによっては、添付されていないこともあります。

- 拡張カードのマニュアル

拡張カードを取り付ける

ここでは、拡張カードを取り付ける方法について説明します。

⚠ 警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電・火災または故障の原因となります。



- 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 基板表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- 拡張カードは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の拡張カードをお使いになると、故障の原因となることがあります。

⚠ 重 要

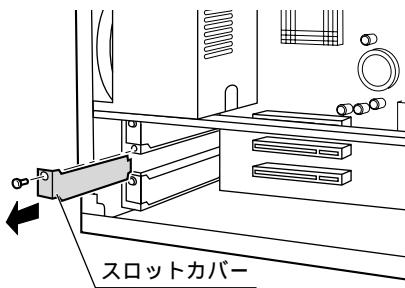
- ▶ 拡張カードを取り付けるときは、拡張カードが拡張スロットに完全に差し込まれていることを確認してください。
完全に差し込まれていないと、拡張カードのドライバのインストールが正常に行われなかったり、故障の原因となることがあります。

POINT

- ▶ SCSI カードを取り付けるときは、SCSI ID を 7 番に設定してください(通常、SCSI カードはあらかじめ 7 番に設定されています)。詳しくは、SCSI カードのマニュアルをご覧ください。

1 「本体力バーを取り外す」([P.38](#))をご覧になり、本体力バーを取り外します。

2 ネジ(1ヶ所)を外して、スロットカバーを取り外します。



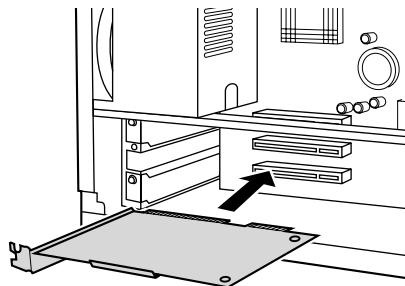
POINT

- 取り外したスロットカバーは捨てずに保管してください。拡張カードを取り外した場合は、スロットカバーを取り付けてください。



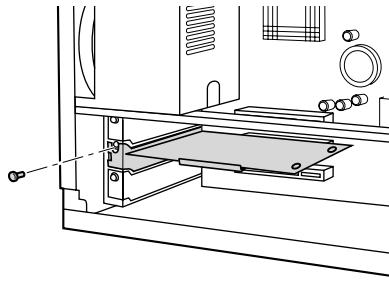
3 拡張スロットに、拡張カードを差し込みます。

拡張カードの端子を、拡張スロットの奥まで完全に差し込んでください。



4 手順2で外したスロットカバーのネジ(1ヶ所)で、拡張カードを固定します。

ネジは固く締めすぎないようにしてください。



5 「本体力バーを取り付ける」([P.39](#))をご覧になり、本体力バーを取り付けます。

6 ディスプレイの電源を入れます。

7 パソコン本体の電源を入れます。拡張カードのマニュアルをご覧になり、画面の指示に従ってドライバをインストールしてください。自動的にドライバがインストールされる場合もあります。

拡張カードにフロッピーディスクや CD-ROM が添付されている場合、パソコン本体の電源を入れると、「フロッピーディスクや CD-ROM をセットしてください」というメッセージが表示されることがあります。画面の指示に従ってフロッピーディスクまたは CD-ROM をセットし、ドライバをインストールしてください。

POINT

- ▶ 「コンピュータを終了しますか？」というメッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてください。パソコン本体の電源が切れます。10秒ほど待ってから、もう一度パソコン本体の電源を入れてください。ドライバのインストールが完了します。

11 ハードディスクを増設する

パソコンを使い込んでいくうちに、アプリケーションをたくさんインストールしたり、容量の大きな画像データなどをたくさん保存したりして、あらかじめ取り付けられているハードディスクの空き容量が少なくなることがあります。

そのようなときには、ファイルやデータを整理して空き容量を増やすのも1つの方法ですが、さらに別売のハードディスクを増設して、保存できる容量を増やすという方法もあります。

取り付けられるハードディスク

ハードディスクにはパソコン本体に内蔵するものと、外付けのものがあります。また、IDE（アイディーイー）とSCSI（スカジー）という2つの規格があります。

IDEは、ハードディスクやCD-ROMドライブなどの内蔵ドライブをマザーボードに接続するための一般的な規格です。

マザーボード上にコネクタがあるため、拡張カードなどを使わずに接続できるという利点があります。

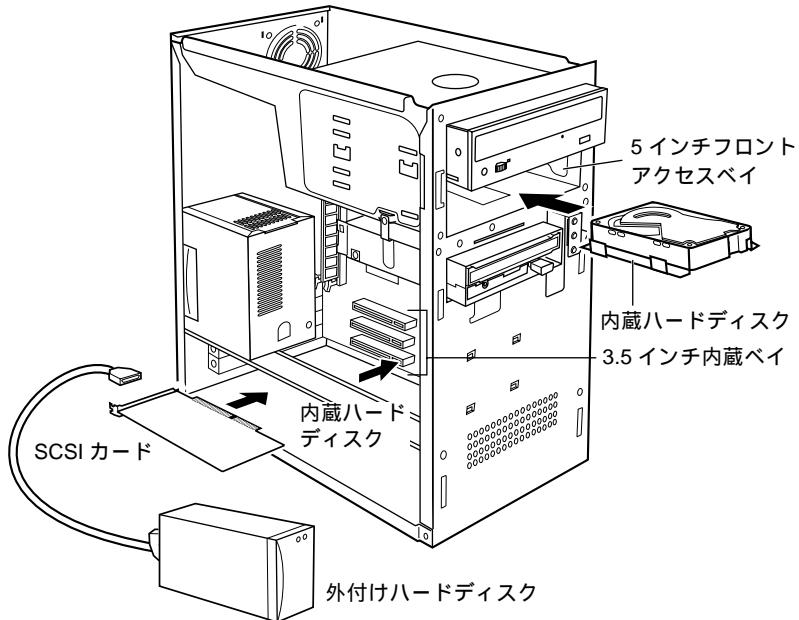
SCSIは、周辺機器を接続するための規格の1つです。SCSI規格に対応している機器には、ハードディスクのほかに、スキャナやMOドライブなどがあります。

拡張カードなどを接続する必要がありますが、IDEよりも多くの周辺機器を接続できます。

このパソコンにはあらかじめIDE規格のハードディスクが1台内蔵されています。

さらに、内蔵ハードディスクとSCSIカードを取り付けることにより、外付けハードディスク（SCSI規格）を増設できます。

内蔵ハードディスクは、電源をパソコン本体からとるため、コンセントを必要とせず、また場所をとらないというメリットもあります。



このパソコンでお使いになれる内蔵ハードディスクの台数と接続方法は、以下のとおりです。

3.5 インチ内蔵ペイ (1 台)	(A) IDE- プライマリのスレーブ
	(B) SCSI
5 インチフロントアクセスペイ (1 台)	(C) IDE- セカンダリのマスター
	(D) SCSI

: 2台増設する場合、内蔵ハードディスクは(A)(C)(A)(D)(B)(D)のいずれかの組み合わせで接続してください。

セカンダリのマスターに取り付けるには、標準搭載の CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブの接続をセカンダリのスレーブに変更する必要があります。

このパソコンのご購入時に取り付けられている内蔵ハードディスクは、IDE- プライマリのマスターに取り付けられています。プライマリ、セカンダリ、マスター、スレーブについて詳しくは、「マスター／スレーブ」(☞ P.68) をご覧ください。

外付けハードディスク (SCSI 規格) の接続可能台数は SCSI カードの仕様によります。

POINT

- ▶ Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設する場合
IDE- プライマリのスレーブに接続してください。IDE- セカンダリでは、Ultra DMA/33 モードでお使いになれません。

必要なものを用意する

△ 注意



- ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。

IDE 規格の内蔵ハードディスクと、SCSI 規格の内蔵／外付けハードディスクでは、必要なものが異なります。

IDE 規格の内蔵ハードディスクを増設する場合

必要なものは増設するハードディスク本体とハードディスクのマニュアルのみです。

ケーブル類は、パソコンに内蔵されているものを使います。

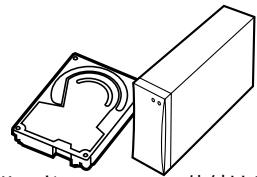
取り付け方法は、「[内蔵ハードディスクを取り付ける](#)」(⇒ P.60) をご覧ください。



SCSI 規格の内蔵／外付けハードディスクを増設する場合

SCSI 規格のハードディスクをお使いになる場合は、次のものが必要です。

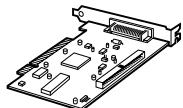
- SCSI 規格のハードディスク



内蔵ハード
ディスク

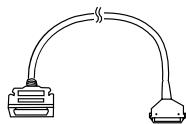
外付けハード
ディスク

- SCSI カード (⇒ P.51)

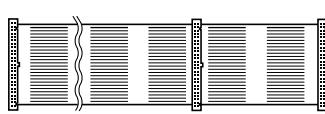


SCSI 規格のハードディスクを取り付けるときに必要な拡張カードです。

- SCSI ケーブル



外付けハードディスク用



内蔵ハードディスク用

SCSI カードとハードディスクをつなぐために必要なケーブルです。

SCSI 規格のコネクタには数種類あります。お使いになる SCSI カードとハードディスクに合ったものをよくご確認のうえご購入ください。

● 終端抵抗（ターミネータ）



電気信号が、SCSI ケーブルを正しく伝わるようにするために使います。

外付けハードディスクには、別売の終端抵抗を取り付けます。SCSI 規格のコネクタは数種類あります。コネクタの形状をご確認のうえご購入ください。

詳しくは次の POINT の「終端抵抗（ターミネータ）」をご覧ください。

終端抵抗は 3 つ以上、取り付けたり有効にしたりしないでください。

● ハードディスクと SCSI カードのマニュアル

POINT

▶ 終端抵抗（ターミネータ）

SCSI 規格の周辺機器は数珠つなぎに接続できます。その際、両端となる機器にそれぞれ終端抵抗を取り付ける必要があります。

たとえば、SCSI 規格の外付けハードディスクを 1 台増設した場合は、SCSI カードと外付けハードディスクが両端となります。

SCSI カードには、通常、終端抵抗が内蔵されていますので、終端抵抗を新たに取り付ける必要はありません。ただし、SCSI カード上のジャンパスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要のあるものもあります。

また、SCSI 規格の内蔵ハードディスクには、通常、終端抵抗が内蔵されています。内蔵ハードディスク上のディップスイッチなどで、終端抵抗を有効、または無効に設定する必要のあるものもあります。

- 内蔵ハードディスクを取り付ける場合「[内蔵ハードディスクを取り付ける](#)」(...▶P.60) をご覧ください。
- 外付けハードディスクを取り付ける場合「[外付けハードディスクを取り付ける](#)」(...▶P.71) をご覧ください。

内蔵ハードディスクを取り付ける

内蔵ハードディスクは、パソコン本体内部の3.5インチ内蔵ベイ、または5インチフロントアクセスベイに取り付けられます。

ここでは、IDE規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについて説明します。

SCSI規格の内蔵ハードディスクの取り付けかたについては、「[SCSI規格の内蔵ハードディスクを取り付ける](#)」(☞P.70)をご覧ください。

- 3.5インチ内蔵ベイに取り付ける場合...「[3.5インチ内蔵ベイに取り付ける](#)」(☞P.62)
- 5インチフロントアクセスベイに取り付ける場合...「[5インチフロントアクセスベイに取り付ける](#)」(☞P.65)

⚠ 警告



感 電

- ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。また、電源ケーブルをパソコン本体から取り外してください。
感電・火災または故障の原因となります。



誤 飲

- 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



故 障

- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因となることがあります。
- ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因になることがあります。



け が

- ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



け が

- 基盤表面上の突起物、および指定されたスイッチ以外には手を振れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

⚠ 重 要

- ▶ 衝撃を与えないでください。内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがあります。取り付けるときは、落としたり倒したりしないよう十分ご注意ください。
また、内蔵ハードディスクのマニュアルに記載されている取り扱い上の注意をよくご覧になってから、パソコン本体に取り付けてください。

IDE 規格の内蔵ハードディスクの設定は、次のとおりです。マスター、スレーブについては、「マスター／スレーブ」([P.68](#))をご覧ください。

1台目（標準搭載）	2台目 ¹	3台目 ²
プライマリのマスター	プライマリのスレーブ	セカンダリのマスター

1: 初めて増設する IDE 規格の内蔵ハードディスクは、必ず 3.5 インチ内蔵ベイに取り付けます。

2: 3 台目のハードディスクを増設する場合は、フラットケーブルを接続し直して、CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブをセカンダリのスレーブにします。

POINT

- ▶ セカンダリに IDE 規格の内蔵ハードディスクを増設した場合は、DMA モードにしないでください。ハードディスクが正常に動作せず、データが失われることがあります。DMA モードでハードディスクをお使いになるには、Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクをプライマリに増設し、「[Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設した場合](#)」([P.69](#)) に従って操作してください。

IDE 規格の内蔵ハードディスクを取り付けるときは、取り付ける内蔵ハードディスクが何台目であるかによって、ジャンパスイッチの設定と取り付ける場所が異なります。

- 初めて IDE 規格の内蔵ハードディスクを取り付ける場合...「[3.5 インチ内蔵ベイに取り付ける](#)」([P.62](#))
- 初めて増設する IDE 規格の内蔵ハードディスクは、必ず 3.5 インチ内蔵ベイに取り付けてください。
- すでに IDE 規格の内蔵ハードディスクを取り付けている場合...「[5 インチフロントアクセスベイに取り付ける](#)」([P.65](#))

3.5インチ内蔵ベイに取り付ける

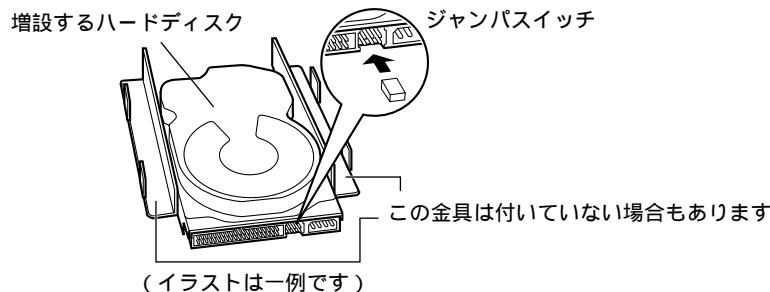
初めてIDE規格の内蔵ハードディスクを増設するときは、3.5インチ内蔵ベイに取り付けます。

1 「本体カバーを取り外す」([P.38](#))をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 増設するハードディスクのジャンパスイッチが「ケーブルセレクト」に設定されているかを確認します。

弊社製のハードディスクは、ご購入時に「ケーブルセレクト」([P.68](#))に設定されています。

「ケーブルセレクト」に設定できないハードディスクの場合は、「スレーブ」([P.68](#))に設定してください。ジャンパスイッチの設定が正しく行われていないと、増設したハードディスクがパソコンに正しく認識されないことがあります。設定方法については、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。

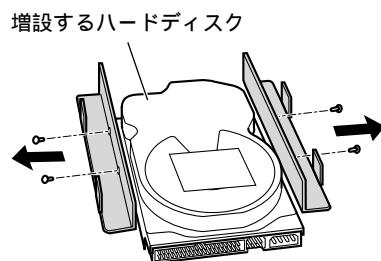


3 増設するハードディスクの両側に金具が付いている場合は、金具を取り外します。

ハードディスクを固定しているネジ(4ヶ所)を外すと、金具が取り外せます。

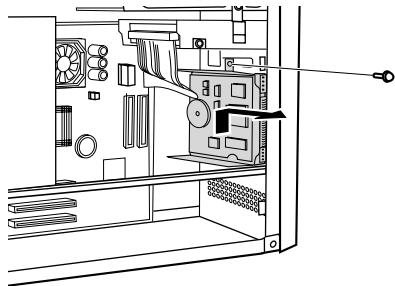
ハードディスクによっては、この金具が取り付けられていないものもあります。

詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。

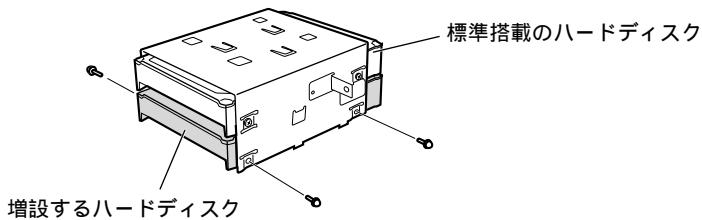


4 あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクから、電源ケーブルとフラットケーブルを取り外します。

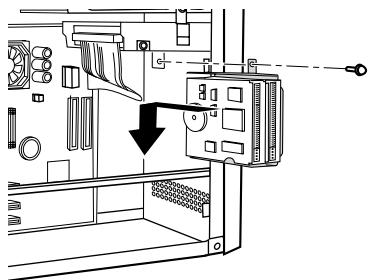
- 5** パソコン本体内部にある 3.5 インチ内蔵ベイの取り付け金具を取り外します。
ネジ（1ヶ所）を外して、パソコン本体の上側にスライドさせると取り外せます。
取り付け金具には、標準搭載のハードディスクがあらかじめ取り付けられています。



- 6** 増設するハードディスクを、手順 5 で取り外した金具に取り付けます。
あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの下に、増設するハードディスクを取り付けます。
手順 3 で外したネジ、またはハードディスクに添付されているネジ（4ヶ所）で固定してください。
ハードディスクを金具に取り付けるときは、インチネジをお使いください。



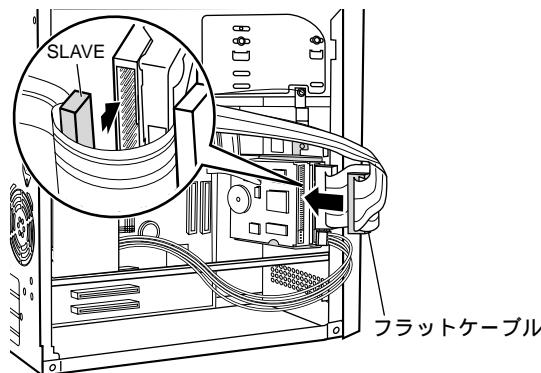
- 7** パソコン本体にハードディスクを取り付けます。
ハードディスクを取り付け位置の少し上に合わせ、パソコン本体の前面側に押しながら、下側にスライドさせて取り付けます。
手順 5 で外したネジ（1ヶ所）で固定してください。



- 8** あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクに、手順 4 で取り外したフラットケーブルと電源ケーブルを接続します。

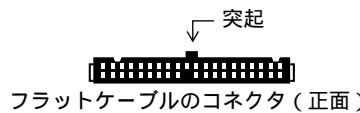
9 増設したハードディスクに、フラットケーブルを接続します。

あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクの、フラットケーブルの中間にコネクタがあります。「SLAVE」と書かれたシールが貼られているコネクタです。そのコネクタを増設するハードディスクのコネクタに差し込んでください。



POINT

- ▶ フラットケーブルのコネクタにある突起とハードディスクのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。



10 増設したハードディスクに、電源ケーブルを接続します。

パソコン本体内部にある電源ケーブル（白いコネクタ）のうち、使われていない1本を、増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。

POINT

- ▶ 電源ケーブルのコネクタと、ハードディスクのコネクタは正面から見ると六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。



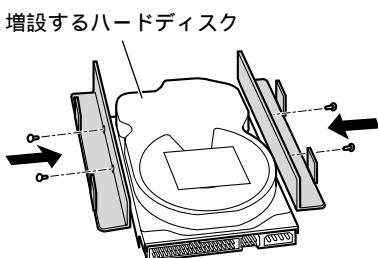
11 「本体力カバーを取り付ける」(▶P39)をご覧になり、本体力カバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「[ハードディスクの領域を設定する](#)」(▶P.73)をご覧ください。

Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設した場合は、「[Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設した場合](#)」(▶P.69)をご覧ください。

5 インチフロントアクセスペイに取り付ける

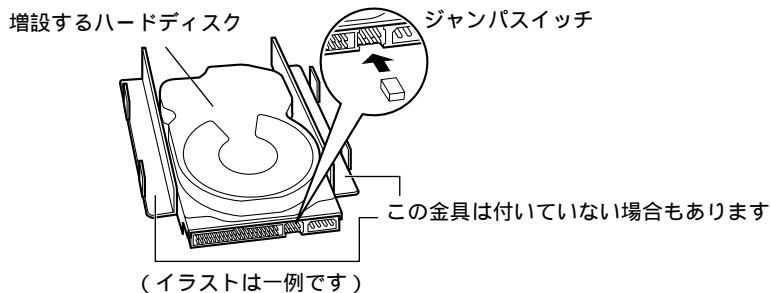
- 1** 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2**  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3** 「CD-ROM」の  をクリックし、CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブ のデバイス名をクリックします。
- 4** 「削除」をクリックします。
- 5** 「警告：このデバイスをシステムから削除しようとしています。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。
- 6** パソコンの電源を切ります。
- 7** 「[本体カバーを取り外す](#)」([P.38](#))をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 8** フロントパネルを取り外します。
[「フロントパネルを取り外す」\(P.40 \)](#)
- 9** 増設するハードディスクの両側に金具を取り付けます。
ハードディスクに添付されている金具を、添付されているネジ(4ヶ所)で固定します。
ハードディスクと金具を取り付ける場合は、インチネジをお使いください。
ハードディスクによっては、この金具があらかじめ取り付けられているものもあります。
詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



- 10** 増設するハードディスクのジャンパスイッチが「ケーブルセレクト」に設定されているか確認します。

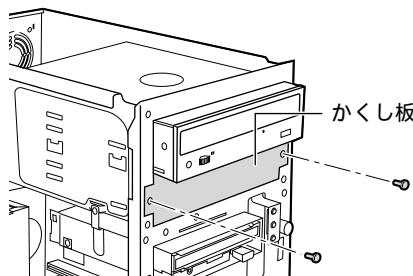
弊社製のハードディスクは、ご購入時に「ケーブルセレクト」([P.68](#))に設定されています。

「ケーブルセレクト」に設定できないハードディスクの場合は、「マスター」([P.68](#))に設定してください。ジャンパスイッチの設定が正しく行われていないと、増設したハードディスクが正しく認識されないことがあります。設定方法については、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。



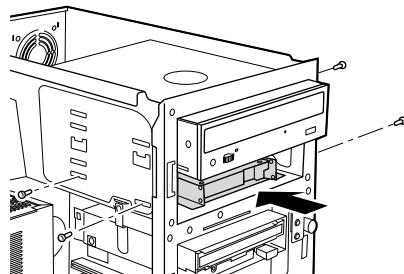
- 11** パソコン本体のかくし板を取り外します。

両側のネジ（2ヶ所）を外して取り外します。取り外したかくし板は、捨てずに保管してください。



- 12** ハードディスクを取り付けます。

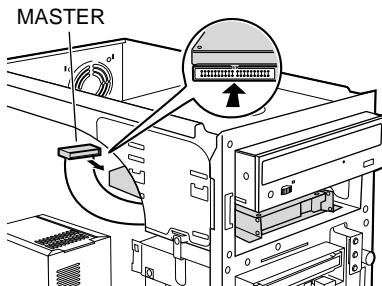
奥までスライドさせ、ハードディスクに添付されているネジ（4ヶ所）で固定してください。



- 13** CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブに接続されているフラットケーブル（黒いコネクタ）を取り外します。

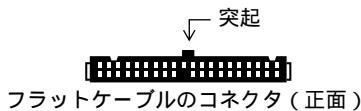
14 増設したハードディスクに、手順13で取り外したフラットケーブルを接続します。

「MASTER」と書かれたシールが貼られているコネクタです。



POINT

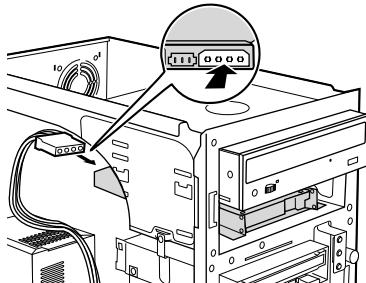
- ▶ フラットケーブルのコネクタにある突起とハードディスクのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。



フラットケーブルのコネクタ（正面）

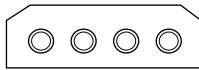
15 増設したハードディスクに、電源ケーブルを接続します。

パソコン本体内部の電源ユニットから電源ケーブル（白いコネクタ）が分岐しています。その電源ケーブルを、増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。



POINT

- ▶ 電源ケーブルのコネクタと、ハードディスクのコネクタは正面から見ると六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。



電源ケーブルのコネクタ（正面）

16 CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブに、手順 14 で接続したフラットケーブルの真ん中にある黒いコネクタを接続します。

「SLAVE」と書かれたシールが貼られているコネクタです。

17 フロントパネルを取り付けます。

「フロントパネルを取り付ける」(▶P.41)

18 「本体カバーを取り付ける」([P39](#))をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「[ハードディスクの領域を設定する](#)」([P.73](#))をご覧ください。

 **POINT**

▶ マスター／スレーブ

IDE 規格では、規格に対応した内蔵ハードディスクや CD-ROM ドライブなどを 2 系統で各 2 台、合計 4 台まで接続できます。

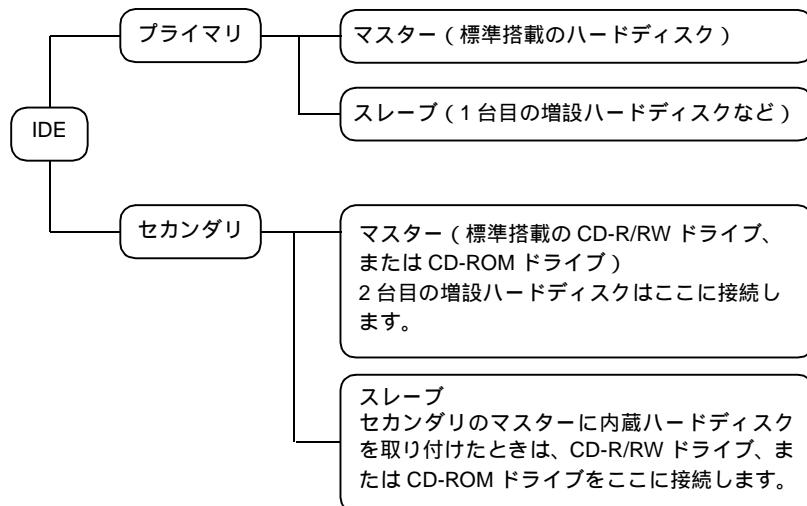
2 系統をそれぞれ、プライマリ、セカンダリと呼び、各系統の 1 台目をマスター、2 台目をスレーブとして区別します。

このパソコンにあらかじめ取り付けられているハードディスクは、「ケーブルセレクト」(以下参照)に設定され、プライマリのマスターとして認識されています。

初めて増設するハードディスクは、プライマリのスレーブとなります。

2 台目に増設するハードディスクは、セカンダリのマスターとして取り付けます。

セカンダリのマスターはパソコンにあらかじめ取り付けられている CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブです。



▶ ケーブルセレクト

このパソコンは「ケーブルセレクト」という機能を備えています。ケーブルセレクトとは、IDE 規格のハードディスクをケーブルの指定の場所に接続するだけで、取り付けたハードディスクがマスターであるかスレーブであるかを、パソコンが自動的に認識するというものです。

▶ Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを増設した場合

Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスク (FMV-ID10H1、FMV-ID20H1 など) を Windows98 環境上で Ultra DMA/33 モードでお使いになる場合は、内蔵ハードディスクを増設したあとに次の操作を行ってください。

なお、次の場合はこの操作は行わないでください。ハードディスクが正常に動作せず、データが失われることがあります。

- Ultra DMA/33 モードに対応していないハードディスクを増設した場合
- セカンダリにハードディスクを接続した場合

また、Ultra DMA/33 対応の内蔵ハードディスクを、Ultra DMA/33 モードにせずに使うこともできます。この場合は、次の操作は不要です。「[ハードディスクの領域を設定する](#)」(☞ P.73) をご覧になり、ハードディスクの領域を設定してください。

1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

2  (システム) をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

このパソコンのハードウェアの一覧が表示されます。

4 「ディスクドライブ」の  をクリックします。
ディスクドライブの一覧が表示されます。

5 2つある「GENERIC IDE DISK TYPEXX」のうち、上から2つ目をクリックして選びます。

6 「プロパティ」をクリックします。

「GENERIC IDE DISK TYPEXX のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

7 「設定」タブをクリックします。

8 「現在のドライブ文字割り当て」に「C:」が表示されていないこと、または何も表示されていないことを確認します。

「現在のドライブ文字割り当て」に「C:」が表示されているときは、「キャンセル」をクリックします。「ディスクドライブ」の2つある「GENERIC IDE DISK TYPEXX」のうち、1つ目をクリックして選び、手順6に戻って操作し直してください。

9 「DMA」をクリックし、 にします。

「サポートされていないハードウェアの注意」ウィンドウが表示されます。

10 「OK」をクリックします。

「GENERIC IDE TYPEXX のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

11 「OK」をクリックします。

「システムのプロパティ」ウィンドウに戻ります。

12 「閉じる」をクリックします。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

13 「はい」をクリックします。

パソコンが再起動します。

このあとは、「[ハードディスクの領域を設定する](#)」(☞ P.73) をご覧になり、増設したハードディスクの領域を設定してください。

SCSI 規格の内蔵ハードディスクを取り付ける

次の手順に従って取り付けてください。

内蔵ハードディスクは精密機器です。衝撃を与えると壊れるおそれがありますので、取り付けるときは落としたり倒したりしないように十分ご注意ください。

- 1** SCSI 規格の内蔵ハードディスクと SCSI カードの SCSI ID([P.71](#))を設定します。
終端抵抗(ターミネータ)の設定が必要な場合もあります。詳しくは、内蔵ハードディスクと SCSI カードのマニュアルをご覧ください。
- 2** 「[本体力バーを取り外す](#)」([P.38](#))をご覧になり、本体力バーを取り外します。
- 3** フロントパネルを取り外します。
「[フロントパネルを取り外す](#)」([P.40](#))
3.5インチ内蔵ベイに取り付ける場合は、この手順は不要です。
- 4** SCSI カードを取り付けます。
「[拡張カードを取り付ける](#)」([P.53](#))
- 5** 3.5インチ内蔵ベイ、または5インチフロントアクセスペイに、SCSI 規格の内蔵ハードディスクを取り付けます。
「[3.5インチ内蔵ベイに取り付ける](#)」手順3～8 ([P.62](#))
「[5インチフロントアクセスペイに取り付ける](#)」手順9、11～12 ([P.65](#))
- 6** SCSIカードに添付されているフラットケーブルで、増設した内蔵ハードディスクと SCSI カードを接続します。
- 7** 増設した内蔵ハードディスクに、電源ケーブルを接続します。
パソコン本体内部にある電源ケーブル(白いコネクタ)のうち、使われていない1本を、増設したハードディスクのコネクタに差し込んでください。
- 8** フロントパネルを取り外した場合は、フロントパネルを取り付けます。
「[フロントパネルを取り付ける](#)」([P.41](#))
- 9** 「[本体力バーを取り付ける](#)」([P.39](#))をご覧になり、本体力バーを取り付けます。

続いて、領域の設定を行います。「[ハードディスクの領域を設定する](#)」([P.73](#))をご覧ください。

外付けハードディスクを取り付ける

ここでは、SCSI 規格の外付けハードディスクの取り付けかたについて説明します。

⚠ 警告



- ハードディスクの取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

⚠ 注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因となることがあります。
- ハードディスクは、弊社純正品をお使いください。
純正品以外のハードディスクをお使いになると、故障の原因となることがあります。
- ハードディスクの取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

1 ハードディスクと SCSI カードの SCSI ID を設定します。

SCSI 規格では複数の機器を接続できます。それらの機器を区別するために付ける番号が「SCSI ID」です。SCSI ID は 0 から 7 番までの番号があります。

SCSI カードには、通常 7 番が設定されています。SCSI ID が設定されていない SCSI カードをお使いになるときは、SCSI ID を 7 番に設定してください。

ハードディスクにはその他の番号を設定してください。

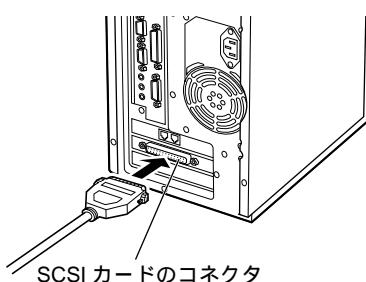
設定のしかたについては、ハードディスクと SCSI カードのマニュアルをご覧ください。

2 SCSI カードを取り付けます。

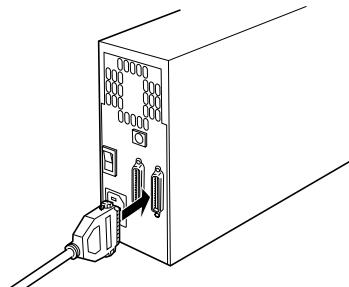
「[拡張カードを取り付ける](#)」([P.53](#))

3 SCSI カードのコネクタに、SCSI ケーブルを接続します。

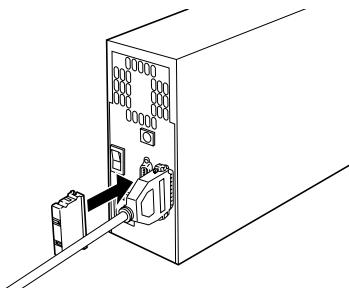
SCSI ケーブルの片方のコネクタを、パソコン本体背面にある SCSI カードのコネクタに接続します。



- 4 ハードディスクのINコネクタに、SCSIケーブルのもう片方のコネクタを接続します。



- 5 ハードディスクの OUT コネクタに、終端抵抗を取り付けます。



POINT

- ▶ ハードディスクによってはコネクタに IN/OUT の指定がないものもあります。そのときは、どちら側に接続してもかまいません。

重要

- ▶ 終端抵抗（ターミネータ）は、SCSI カードおよび末端となる機器にのみ取り付けてください（SCSI カードには通常、終端抵抗が内蔵されています）
すでに SCSI 規格の内蔵周辺機器を増設していた場合は、SCSI カードの終端抵抗を無効にする必要がある場合があります。詳しくは、SCSI カードのマニュアルをご覧ください。
終端抵抗を 3 つ以上、取り付けたり有効にしたりすると、故障の原因となることがあります。

- 6 ハードディスクに電源ケーブルを接続します。

ハードディスクに電源ケーブルがつながっている場合もあります。詳しくは、ハードディスクのマニュアルをご覧ください。

- 7 パソコン本体と、ディスプレイ、接続されている機器、接続したハードディスクの電源プラグをコンセントに差し込みます。

続いて、領域の設定を行います。「[ハードディスクの領域を設定する](#)」(▶P.73) をご覧ください。

ハードディスクの領域を設定する

領域について

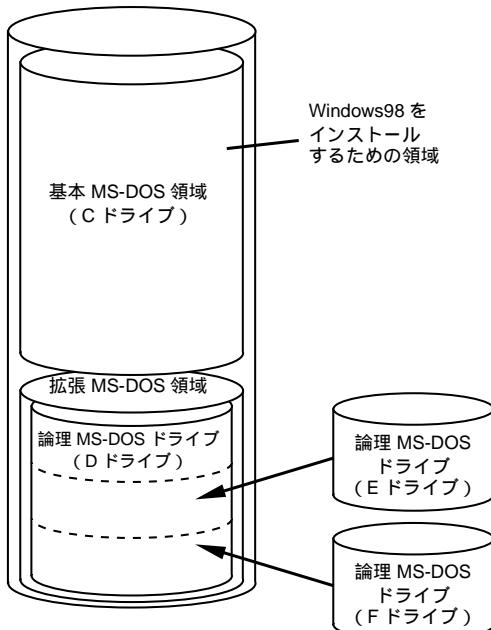
あらかじめ取り付けられている内蔵ハードディスクは、ご購入時には C ドライブと D ドライブに区切られています。区切ったそれぞれのことを「領域」といいます。

ハードディスクの C ドライブにあたる部分を「基本 MS-DOS 領域」といい、Windows98 がインストールされています。

C ドライブ以外の領域は、すべて「拡張 MS-DOS 領域」といいます。ただし、実際に「拡張 MS-DOS 領域」を使うには、この中に「論理 MS-DOS ドライブ」というものを作成する必要があります。D ドライブは、この「論理 MS-DOS ドライブ」にあたります。

ご購入時には、「拡張 MS-DOS 領域」の中に「論理 MS-DOS ドライブ」が 1 つだけ作られています。このドライブを区切り直して複数の「論理 MS-DOS ドライブ」を作成すると、D ドライブ、E ドライブ… というように複数のドライブとして利用できます。

また、増設したハードディスクを使えるようにするには、領域を設定する必要があります。ハードディスクは工夫して使えば、データの管理なども自分好みに管理することができます。ハードディスクを複数のドライブに設定するためには、領域の設定をする必要があります。



「拡張 MS-DOS 領域」の中には、複数の「論理 MS-DOS ドライブ」を作成できます。
この場合、E ドライブ、F ドライブ…というように順番にドライブ名が追加されます。

領域を設定する

ここでは、ハードディスクを1台増設した場合の領域の設定のしかたを説明します。使っていたハードディスクの領域を設定し直す場合は、領域を削除してからこの作業を行ってください。

「領域を削除する」([…▶P.77](#))

○ 重要

- ▶ ハードディスクを増設したあと、本書の手順に従って領域の設定を行うと、E ドライブ以降（基本 MS-DOS 領域を作成する場合は D ドライブ以降）のドライブ名が変更されます。CD-R/RW ドライブ、または CD-ROM ドライブのドライブ名も変更されます。お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。
- ▶ 領域を設定し直すと、そのハードディスクに保存されていたデータは失われてしまいます。使っていたハードディスクの領域を設定し直すときは、フロッピーディスクや他のハードディスクなどにバックアップをとるなどしてから、領域を設定してください。

○ POINT

- ▶ 外付けハードディスクを増設したときは、パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。
- ▶ 作業をはじめる前に、ハードディスクの全容量をご確認のうえ、どのように領域を区切るかを考えてから、設定することをお勧めします。

1 ディスプレイの電源を入れ、次にパソコン本体の電源を入れます。

外付けハードディスクを増設した場合は、パソコン本体の電源を入れる前に、外付けハードディスクの電源を入れてください。

○ POINT

- ▶ あらかじめ取り付けられているハードディスクのフラットケーブルのコネクタが抜けていると、起動途中にエラーメッセージが表示されたまま、パソコンが停止してしまいます。その場合は、パソコン本体の電源スイッチを電源が切れるまで押し続けたあと、フラットケーブルのコネクタ（パソコン本体側とハードディスク側の両方）がしっかりと差し込まれているか確認してください。

2 アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除します。

タスクバーにアイコン表示されている、常駐しているアプリケーションも終了させてください。

3 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOS プロンプト」の順にクリックします。

4 「C:¥WINDOWS>」に続けて「fdisk」と入力し、**[Enter]** を押します。

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」というメッセージが表示されます。

5 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。

- 6** [5] を押して「5. 現在のハードディスクドライブを変更」を選び、[Enter] を押します。

「ハードディスクドライブの番号を入力してください」というメッセージが表示されます。

POINT

▶ 「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されていないときは、領域の設定を中断します。

- [Esc] を押します。

「C:>WINDOWS>」と表示されます。

- 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウの をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、「exit」と入力し、[Enter] を押します。

このあとパソコンの電源を切り、次のことを確認してください。

- ・ハードディスクが正しく接続されているか
 - ・外付けハードディスクの場合は、電源が入っているか
- 確認したあと、再び手順1([P.74](#))から操作してください。

SCSI 規格のハードディスクを増設した場合で、上記のことを確認しても「5. 現在のハードディスクドライブを変更」が表示されないときは、増設したハードディスクを Windows98 が認識していない可能性があります。

以下の手順に従って確認してください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。

- 2 (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

- 3 「ディスクドライブ」の をクリックし、増設したハードディスクをクリックします。

「ディスクドライブ」内の「GENERIC IDE DISK TYPEXX」と「GENERIC XXX FLOPPY DISK」と表示されている以外のものが増設したハードディスクです。

- 4 「プロパティ」をクリックし、「設定」タブをクリックします。

- 5 「オプション」欄の「Int13 ユニット」が になっていることを確認し、「OK」をクリックします。

になっているときは、 をクリックして にし、「OK」をクリックしてください。

- 6 「OK」または「閉じる」をクリックします。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてパソコンを再起動してください。

- 7 「領域を設定する」の手順2([P.74](#))から操作します。

▶ ハードディスクなどの周辺機器を増設する台数によって、以降の画面や、手順のドライブ名、ハードディスクの番号は異なる場合があります。

- 7** 設定したいハードディスクを選び、[Enter] を押します。

ディスク1は、あらかじめ取り付けられているハードディスクです。

ディスク2が増設したハードディスクです。

- 8** 領域を設定し直す場合、領域を削除します。

「領域を削除する」([P.77](#))

9 「現在のハードディスク」が手順 7 で選んだ数字になっていることを確認し、**[1]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。

10 **[2]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。
「ディスクの総容量は … 拡張 MS-DOS 領域を作ります。」というメッセージが表示されます。
ハードディスクのすべてを拡張 MS-DOS 領域に設定する場合、増設したハードディスクによっては、「領域に割り当て可能な最大領域」が「ディスクの総容量」より少なく表示される場合があります。

11 **[Enter]** を押します。
「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されます。

12 **[Esc]** を押します。

13 ここでは、ハードディスクの領域を分けるか分けないかによって、操作手順が異なります。

- 領域を分けない場合
[Enter] を押して、「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されたら手順 15 へ進みます。
- 領域を分ける場合
1 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。「論理 MS-DOS ドライブを作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」というメッセージが表示されます。

14 2 つ目の領域に設定したい容量を数字キーで入力し、**[Enter]** を押します。
この手順を繰り返すと、さらに領域を分けることができます。
表示されている数値を確認し、そのまま**[Enter]** を押してもかまいません。表示されている数値が、分けた領域の容量となります。
領域をすべて分け終わると、「拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています。」というメッセージが表示されます。

POINT

- ▶ 容量を入力するとき、単位は「MB」または「%」で入力してください。「MB」で指定する場合は「XXXX」と数字のみを入力します。「%」で指定する場合は、「XX%」と単位を付けて入力します。
画面に表示されている「割り当て可能な最大領域」の数値を目安に、それ以下の数値を入力してください。「MB」で指定した場合は、入力した値と画面に表示される値が若干異なることがあります。

15 **[Esc]** を押します。

16 **[Esc]** を押します。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されます。

17 **[Esc]** を押します。

「C:>WINDOWS>」と表示されます。

18 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウの **[X]** をクリックします。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示している場合は、「exit」と入力し、**[Enter]** を押してください。

「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが閉じます。

19 「スタート」ボタン 「Windows の終了」の順にクリックします。

20 「再起動する」をクリックし、**[OK]** にします。

21 「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。

続いて、増設したハードディスクをフォーマットします。「フォーマットする」(…▶P.79)をご覧ください。

領域を削除する

ハードディスクの領域を設定し直すには、すでに設定されている領域を削除しなければなりません。ただし、領域を設定し直すと、ハードディスクに保存されていたデータは消去されます。

1 「領域を設定する」の手順 1 ~ 7 (…▶P.74) の作業を行います。

2 「現在のハードディスク」が領域を削除したいドライブになっていることを確認します。

3 **[③]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

4 **[③]** を押して「3. 拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。

5 「Drv」の下に表示されているドライブ名（アルファベット 1 文字）を入力し、**[Enter]** を押します。

領域を削除する増設ハードディスクの領域が 2 つ以上に分かれている場合は、「Drv」の下にドライブ名（アルファベット）が複数表示されています。そのうちのどのドライブ名を入力してもかまいません。残りのドライブは、あとで選べます。

- 6 「ボリュームラベルを入力してください」というメッセージが表示されます。
 - 画面上部の「ボリュームラベル」の下に何も表示されていない場合そのまま **[Enter]** を押します。
 - 画面上部の「ボリュームラベル」の下に文字や記号が表示されている場合表示されている文字や記号を入力し、**[Enter]** を押します。
- 7 「よろしいですか (Y/N)」というメッセージが表示されたら **[Y]** を押し、**[Enter]** を押します。「Drv」の下に表示されているドライブ名（アルファベット）の右横に「ドライブを削除しました.」というメッセージが表示されます。
- 8 ここでは、領域を削除する増設ハードディスクの領域が分かれているかいないかによって、行う手順が異なります。
 - 領域が分かれていな場合画面下に「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました.」というメッセージが表示されているのを確認し、**[Esc]** を押します。
 - 領域が分かれている場合手順 5 ~ 7 を繰り返し、ドライブを削除します。「Drv」の下に表示されているすべてのドライブ名（アルファベット）の右横に「ドライブを削除しました.」というメッセージが表示され、画面下に「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました.」というメッセージが表示されたことを確認します。その後、**[Esc]** を押します。
- 9 「論理ドライブは定義されていません.」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。
- 10 **[③]** を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、**[Enter]** を押します。
- 11 **[②]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を削除」を選び、**[Enter]** を押します。
- 12 **[Y]** を押して、**[Enter]** を押します。
- 13 「拡張 MS-DOS 領域を削除しました.」というメッセージが表示されたら、**[Esc]** を押します。

基本 MS-DOS 領域が作成されている増設ハードディスクの領域を削除するときは、このあと基本 MS-DOS 領域も削除してください。

続いて、領域を削除した増設ハードディスクの領域を設定し直します。「[領域を設定する](#)」の手順 9 ([P.76](#)) から作業を行ってください。

POINT

- ▶ ハードディスク増設時のドライブ名の割り当て
ハードディスクを増設して領域の設定を行うと、ドライブ名が変更されます。
パソコンにハードディスクを1台増設した場合、以下の表のとおりの順番でドライブ名が割り当てられます。
ドライブ名(ア)は増設ハードディスクの領域を分けなかった場合、ドライブ名(イ)は増設ハードディスクの領域を2つに分けた場合です。

割り当て順	ドライブ	ドライブ名(ア)	ドライブ名(イ)	備考(FDISKとの対応)
1	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の1つ目の領域	C	C	ハードディスク1の基本MS-DOS領域
2	「ご購入時に内蔵されているハードディスク」の2つ目の領域	D	D	ハードディスク1の論理MS-DOSドライブ
3	「増設したハードディスク」の1つ目の領域	E	E	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
4	「増設したハードディスク」の2つ目の領域	-	F	ハードディスク2の論理MS-DOSドライブ
5	CD-R/RW ドライブ、またはCD-ROM ドライブ	F	G	-

- 増設ハードディスクの領域を3つ以上に分けた場合は、割り当て順4番と5番の間に増設ハードディスクの3つ目以降の領域が割り当てられ、最後にCD-R/RW ドライブ、またはCD-ROM ドライブが割り当てられます。
 - 増設ハードディスクに基本MS-DOS領域を作成した場合は、通常は割り当て順1番と2番の間に増設ハードディスクの1つ目の領域(ハードディスク2の基本MS-DOS領域)が入り、ドライブ名「D」が割り当てられます。
- お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要になることがあります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

フォーマットする

領域の設定を行ったあとに、フォーマットする必要があります。フォーマットすると、増設したハードディスクにデータを読み書きできるようになります。

また、フォーマット済みのものを増設した場合も、領域を設定し直すとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。

重要

- ▶ ハードディスクのフォーマットを行うと、そのハードディスクの内容はすべて失われます。あらかじめ取り付けられているハードディスクを誤ってフォーマットしないようにご注意ください。
- ▶ BIOS セットアップの設定値を変更した場合、BIOS セットアップのメインメニューのIDE ブライマリスレーブやIDE セカンダリマスターでサブメニューにあるLBA モード制御が「使用しない」に設定されると、528MB 以上のハードディスクをフォーマットできません。設定を「自動」に戻してからフォーマットしてください。
パソコンのご購入時は「自動」に設定されているので、通常は変更しないでください。
詳しくは、「[BIOS セットアップ](#)」(☞ P.91)をご覧ください。

- 1** アプリケーションを終了させ、スクリーンセーバーを解除します。
タスクバーにアイコン表示されている、常駐しているアプリケーションも終了させてください。
- 2** デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。
- 3** 増設したハードディスクの  (ドライブ) にマウスポインタを合わせます。
マウスポインタが  から  に変わり、選んだドライブのアイコンが反転表示されます。



増設したハードディスクのドライブ名は、領域の設定でハードディスクの領域をいくつに分けたかによって異なります。

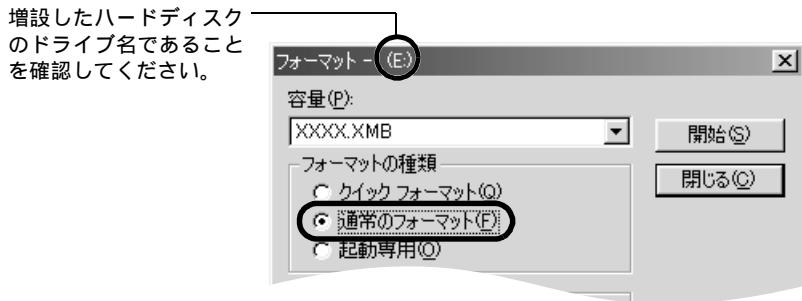
上の画面は、ハードディスクを1台増設し、本書の手順に従って、増設したハードディスクの領域（拡張 MS-DOS 領域）を2つに分けた場合です。

☞ 重 要

- ▶ どのドライブが増設したハードディスクのものか調べてください。フォーマットされていないハードディスクの  (ドライブ) のアイコンを反転表示させたとき、「マイコンピュータ」ウィンドウの左端のローカルディスクの欄は何も表示されません。あらかじめ取り付けられていたハードディスクの  (ドライブ) のアイコンを反転表示させると、ローカルディスクの欄に円グラフが表示されます。
- ▶ 増設したハードディスクのドライブのアイコンをクリックしてしまうと、「アクセスできません。」というメッセージが表示されます。メッセージが表示されたら「キャンセル」をクリックしてください。

- 4** 「ファイル」メニュー 「フォーマット」の順にクリックします。

- 5** 「フォーマットの種類」の「通常のフォーマット」をクリックして \textcircled{C} にし、「開始」をクリックします。



- 6** 「OK」をクリックします。

フォーマットが始まります。

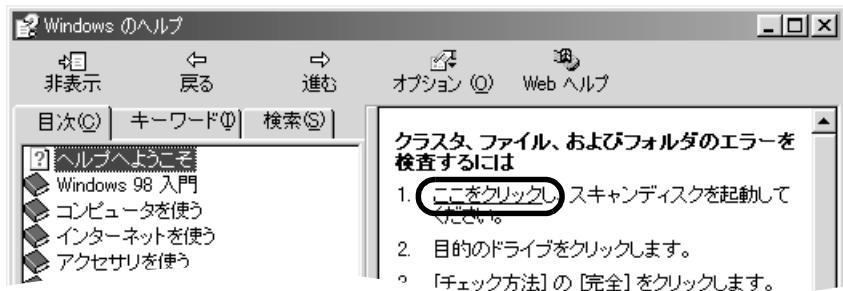
- 7** フォーマット結果を確認したあと、「閉じる」をクリックします。

- 8** 「OK」をクリックします。

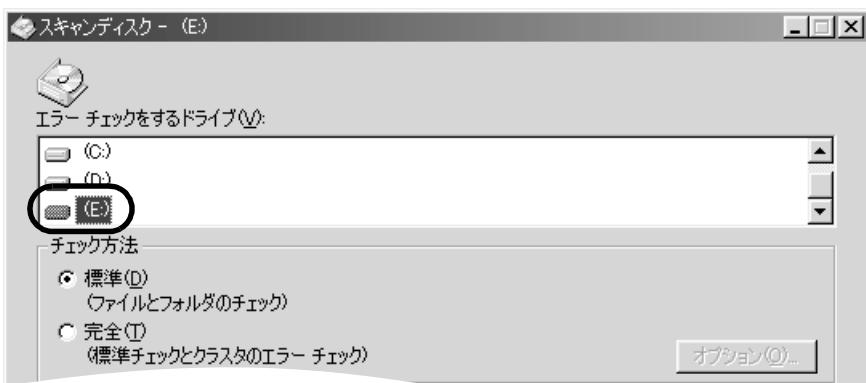
- 9** 増設したハードディスクに、スキャンディスクを実行します。

スキャンディスクは、ディスクの表面にエラーがないかを調べます。

ヘルプ画面の「ここをクリック」をクリックしてください。



- 10** 「エラーチェックをするドライブ」でチェックするドライブを選びます。



11 「チェック方法」の「完全」をクリックして にし、「開始」をクリックします。
スキャンディスクが始まります。しばらくすると、スキャンディスクが終了し、「結果レポート」が表示されます。

12 「結果レポート」ウィンドウの内容を確認し、「閉じる」をクリックします。

○ **POINT**

- ▶ スキャンディスクの途中で、ハードディスクにエラーが検出された場合は、画面の指示に従ってエラーを修復してください。

13 「スキャンディスク」ダイアログボックスの「閉じる」をクリックします。

14 「Windows のヘルプ」ウィンドウの  をクリックします。

15 「フォーマット」ダイアログボックスの「閉じる」をクリックします。

領域を 2 つ以上に分けたときは、手順 3 ~ 14 を繰り返し、増設したハードディスクのすべての領域をフォーマットしてください。

16 「マイコンピュータ」ウィンドウの  をクリックします。

○ **POINT**

- ▶ フォーマット直後、増設したハードディスク(IDE 規格)に長いファイル名のファイルをコピーできない場合があります。
パソコンを再起動すると、コピーできるようになります。
SCSI 規格のハードディスクを増設した場合は、ファイル名の長さにかかわらずファイルはコピーできます。

12 5インチフロントアクセスペイに周辺機器を取り付ける

パソコン本体の5インチフロントアクセスペイ([P.12](#))に内蔵SCSI周辺機器(MOドライブ、CD-ROMドライブなど)や内蔵ハードディスクなどの内蔵周辺機器を取り付けられます。ここでは、SCSI規格の内蔵MOドライブの取り付けかたを例にして説明します。実際にMOドライブをお使いになる場合は、「[MQ\(光磁気ディスク\)ドライブを使う](#)([P.87](#))をご覧になり、必要なものをご用意ください。

△ 警告



- 内蔵周辺機器の取り付けや取り外しを行うときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
また、電源ケーブルをパソコン本体から取り外してください。
感電の原因となります。
- 取り外したネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

△ 注意



- ケーブルは正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体が故障する原因となることがあります。
- 内蔵周辺機器は、弊社純正品をお使いください。
純正品以外の内蔵周辺機器をお使いになると、故障の原因となることがあります。
- 内蔵周辺機器の取り付けを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

POINT

- ▶ 内蔵フロッピーディスクドライブは5インチフロントアクセスペイに取り付けることはできません。
- ▶ 5インチフロントアクセスペイに内蔵ハードディスクを増設済みの場合は、内蔵周辺機器を増設できません。
- ▶ 内蔵ハードディスクを取り付けるときは、「[内蔵ハードディスクを取り付ける](#)([P.60](#))」をご覧ください。

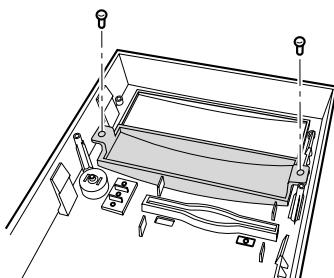
- 1 「[本体カバーを取り外す](#)([P.38](#))」をご覧になり、本体カバーを取り外します。
- 2 フロントパネルを取り外します。
[「フロントパネルを取り外す」\(P.40 \)](#)
- 3 SCSIカードを取り付けます。
[「拡張カードを取り付ける」\(P.53 \)](#)

- 4** SCSI 規格の内蔵 MO ドライブの SCSI ID([P.71](#))と終端抵抗を設定します。SCSI ID は内蔵 MO ドライブのマニュアルをご覧になり、0 ~ 6 番の間で任意の番号を設定します。

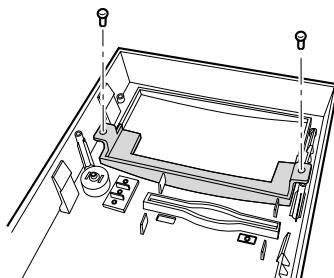
他の SCSI 機器を接続している場合は、その機器の SCSI ID と重複しない番号を設定してください。

終端抵抗の設定については、内蔵 MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

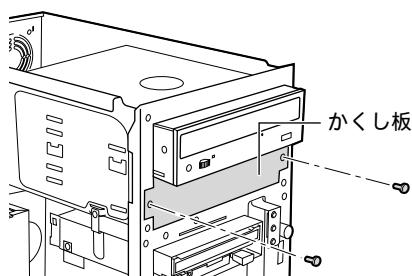
- 5** 手順 2 で取り外したフロントパネルの裏面から、かくし板を取り外します。かくし板の両端にあるネジ（2ヶ所）を外して取り外します。取り外したかくし板は、捨てずに保管してください。



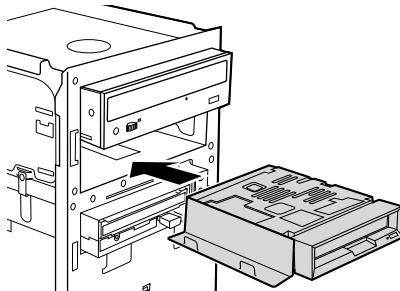
- 6** フロントパネルに、5 インチフロントアクセスペイパネルを取り付けます。パソコンに添付されている 5 インチフロントアクセスペイパネルを、手順 5 で取り外したネジでフロントパネルに取り付けてください。
CD-ROM ドライブを取り付ける場合は、この作業は必要ありません。



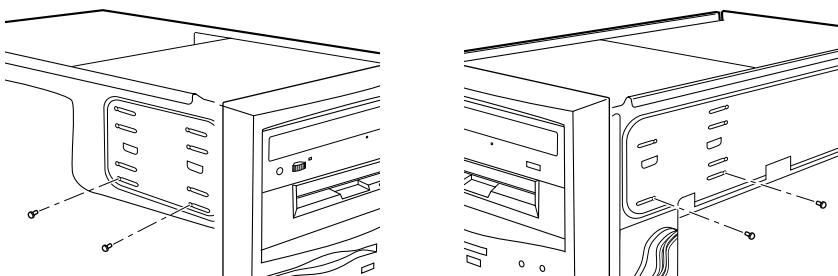
- 7** パソコン本体からかくし板を取り外します。
両側のネジ（2ヶ所）を外して取り外します。取り外したかくし板は捨てずに保管してください。



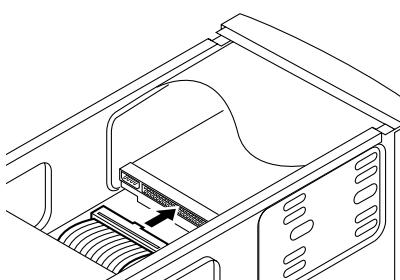
- 8** 5インチフロントアクセスペイに、増設する内蔵 MO ドライブを取り付けます。
パソコン本体前面側から取り付けてください。



- 9** フロントパネルを取り付けます。
[「フロントパネルを取り付ける」\(▶P.41 \)](#)
- 10** 取り付けた内蔵 MO ドライブをネジ(片側 2ヶ所ずつ計 4ヶ所)で固定します。
 ドライブの前面が、取り付けた 5 インチフロントアクセスペイパネルの面と揃う位置を探します。
 位置が決まったらドライブに添付されているネジ(4ヶ所)で固定してください。



- 11** フラットケーブルを接続します。
 SCSI カード用のフラットケーブルの片方のコネクタを、MO ドライブのコネクタに差し込んでください。もう片方のコネクタを拡張スロットに取り付けた SCSI カードのコネクタに差し込んでください。

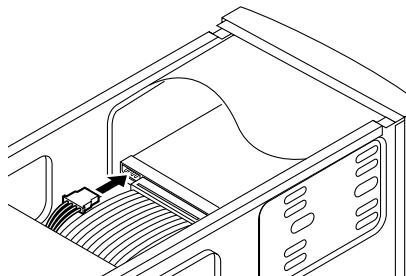


POINT

- ▶ フラットケーブルのコネクタにある突起と MO ドライブのコネクタにある切り込みとを合わせて差し込んでください。

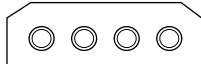
12 MO ドライブに、電源ケーブルを接続します。

パソコン本体内部の電源ケーブル(白いコネクタ)のうち、使われていない1本を内蔵MO ドライブのコネクタに差し込んでください。



POINT

- ▶ 電源ケーブルのコネクタと、MO ドライブのコネクタは正面から見ると六角形になっています。その形を互いに合わせて差し込んでください。



電源ケーブルのコネクタ(正面)

13 「本体カバーを取り付ける」(⇨P39)をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

13 その他の周辺機器を使う

MO（光磁気ディスク）ドライブを使う

MO（エムオー）ドライブとは、レーザーと磁気で MO（光磁気ディスク）にデータを書き込み、レーザーで読み出しを行う記憶装置です。MO は、フロッピーディスクと比べて、大量のデータを保存できます。

必要なものを用意する

MO ドライブを使うには、次のものが必要です。

- MO ドライブ

MO ドライブには、パソコン本体に内蔵するものと、外付けのものがあります。また、ATAPI と SCSI という 2 つの規格があります。

ATAPI 規格の MO ドライブは、パソコン本体の 5 インチフロントアクセスペイに取り付けます。SCSI 規格の MO ドライブは、外付けのものと内蔵のものがあります。SCSI 規格の MO ドライブを使うには、MO ドライブ本体のほかに、SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗などが必要です。

- SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗（ターミネータ）

SCSI 規格の MO ドライブを使うために必要なものです。

終端抵抗（ターミネータ）は、内蔵されている場合もあります。

SCSI カード、SCSI ケーブル、終端抵抗（ターミネータ）については、「[SCSI 規格の内蔵 / 外付けハードディスクを増設する場合](#)」（[P.58](#)）をご覧ください。

- MO

128MB、230MB、540MB、640MB、1.3GB の容量のものが市販されています。お使いになる前にフォーマットする必要があります。

お使いになる MO ドライブによって、対応している容量が異なります。お使いになる MO ドライブが対応している容量の MO をご購入ください。

MO ドライブを使うには

お使いになる MO ドライブによって、接続方法が異なります。詳しくは、MO ドライブのマニュアルをご覧ください。

SCSI 規格の MO ドライブを使う

- 内蔵 MO ドライブを使う場合…「[5 インチフロントアクセスペイに周辺機器を取り付ける](#)」（[P.83](#)）
- 外付けの MO ドライブを使う場合…「[外付けハードディスクを取り付ける](#)」（[P.71](#)）

ATAPI 規格の MO ドライブを使う

ATAPI 規格の MO ドライブをお使いになるには、次の手順を参考にして MO ドライブを取り付けてください。

1 本体カバー、フロントパネルを取り外す

「[本体カバーを取り外す](#)」(☞ P.38)

「[フロントパネルを取り外す／取り付ける](#)」(☞ P.40)

2 フロントパネルの隠し板を取り替える

「[5 インチフロントアクセスペイに周辺機器を取り付ける](#)」手順 5、6(☞ P.84)

3 MO ドライブを取り付ける

「[5 インチフロントアクセスペイに取り付ける](#)」手順 9 ~ 18(☞ P.65)

また、MO ドライブのマニュアルもあわせてご覧ください。

複数のディスプレイを使う

Windows98 には、1 台のパソコンに複数のグラフィックスカードとディスプレイを接続して、複数台のディスプレイで 1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここでは、例として、2 台のディスプレイでマルチモニタ機能を使うために必要なものと作業について説明します。

必要なものを用意する

マルチモニタ機能を使うには、パソコンのほかに次のものが必要です。

- グラフィックスカード（PCI 規格）

マルチモニタ機能に対応したグラフィックスカードをご用意ください。

- ディスプレイドライバ（マルチモニタ対応）

お使いになるグラフィックスカードによっては、ドライバが必要なものがあります。グラフィックスカードに添付されているドライバをご用意ください。

グラフィックスカードのドライバのフロッピーディスクが数枚添付されている場合は、「Windows98 対応」「PC/AT 互換機用」などと記載されたものをお使いください。

- ディスプレイ

お使いになるグラフィックスカード、ディスプレイドライバに対応したディスプレイをご用意ください。

重 要

▶ グラフィックスカードを選ぶときの注意

- AGP 規格のグラフィックスカードは、このパソコンには AGP スロットがないため、お使いになれません。
- Windows98 に対応しているグラフィックスカードであっても、添付されているディスプレイドライバがマルチモニタ機能には対応していない場合があります。マルチモニタ機能に対応しているか製造元のメーカーにご確認ください。

グラフィックスカードとディスプレイを接続する

グラフィックスカードを取り付けてディスプレイを接続し、ディスプレイドライバをインストールします。

- 1 グラフィックスカードをこのパソコンに取り付けます。

「[拡張カードを取り付ける](#)」([P.53](#))

- 2 取り付けたグラフィックスカードに、ディスプレイを接続します。

接続方法については、ディスプレイとグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。

- 3 ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

接続方法については、ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

- 4 元のディスプレイと接続したディスプレイの電源を入れ、次にパソコン本体の電源を入れます。

パソコン本体の電源を入れると、接続したディスプレイのほうに起動画面が表示されます。

- 5 ディスプレイドライバをインストールします。

グラフィックスカードのマニュアルをご覧になり、新たに取り付けたグラフィックスカードのディスプレイドライバをインストールしてください。ドライバをインストールしたあと、パソコンを再起動してください。

POINT

- ▶ お使いのグラフィックスカードによっては、パソコンにあらかじめ接続されているディスプレイの画面が正しく表示されない場合があります。その場合は、『アプリケーション CD2』の「e:\SiS530\install.txt」をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。

マルチモニタ機能を設定する

ディスプレイドライバをインストールし、パソコンを再起動したあと、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」の順にクリックします。

- 2  (画面) をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 3 「設定」タブをクリックします。

4 「2」と書かれたディスプレイをクリックして選びます。

「このモニタを使用可能にしますか？」というメッセージが表示されます。

○ **POINT**

- ▶ パソコン本体の電源を入れると、起動画面はプライマリディスプレイに表示されます。プライマリモニタは、「設定」タブで「1」と表示され、セカンダリモニタは「2」と表示されます。

このパソコンでは、『取扱説明書』に記載されているとおりに接続したディスプレイがセカンダリモニタとなり、増設したグラフィックスカードに接続したディスプレイがプライマリモニタになります。

また、複数のPCI グラフィックスカードを取り付けた場合、拡張スロット（[P.52](#)）の番号の小さい順に、モニタが割り当てられています。

5 「はい」をクリックします。

6 「適用」をクリックします。

7 接続したディスプレイの解像度と発色数を設定します。

解像度と発色数の設定のしかたについては、「[画面の解像度と発色数について](#)」（[P.17](#)）をご覧ください。

「互換性の警告」ウィンドウが表示された場合は、「新しい色の設定で再起動する」を選び、「OK」をクリックしてください。

「システム設定の変更」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

変更可能な解像度や発色数はグラフィックスカードのマニュアルをご覧ください。

○ **POINT**

- ▶ 接続したディスプレイによっては、ディスプレイの設定作業が必要な場合があります。詳しくは、『トラブル解決 Q&A』の「画面が乱れる」をご覧ください。

第3章

BIOS セットアップ

BIOS セットアップの設定方法や、パスワードの設定方法などについて説明しています。

BIOS セットアップは、パソコンのハードウェアとしての状態を設定するためのソフトウェアです。

日常的にお使いになる範囲では、BIOS セットアップを操作する必要はありません。設定が必要な場合のみ、お読みください。正しく設定しないとパソコンが正常に動作しなくなることもあります。

また、BIOS セットアップの画面、項目名、仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは	92
2 BIOS セットアップの操作のしかた	93
3 ご購入時の設定に戻す	98
4 BIOS のパスワード機能を使う	100
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	105

1 BIOS セットアップとは

BIOS（バイオス）セットアップではメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定します。

このパソコンでは、あらかじめ最適な状態に設定されています。次のような場合にのみ設定を行ってください。

- 特定の人だけがパソコンを利用できるように、パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- 省電力モード（電源を入れた状態で一定時間使わなかったときに、消費する電力を減らして待機している状態）を解除、または変更するとき
- 電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されたとき
- 他の OS をお使いになるとき

POINT

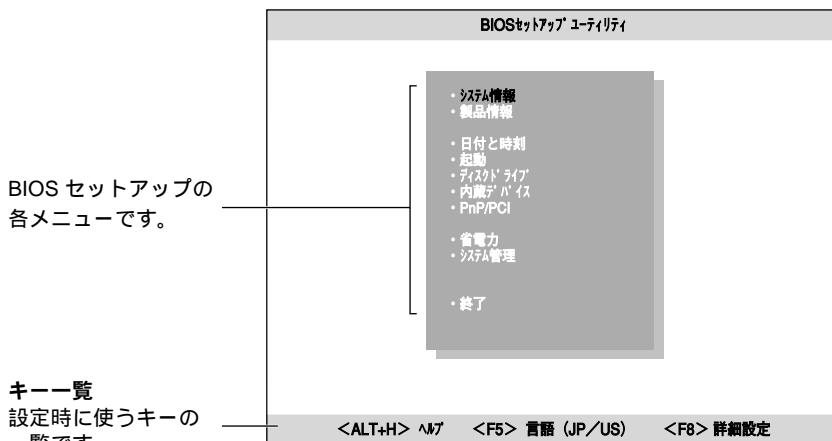
- ▶ バッテリの交換について
BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM（シーモスラム）と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリによって保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていないおそれがあります。バッテリが消耗していることが考えられますので、弊社パーソナルエコセンター、FM インフォメーションサービスまたはご購入元にご連絡ください。
パーソナルエコセンターのご利用については、『富士通パソコンご案内』をご覧ください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

ここでは、BIOS セットアップの始めかた、終わりかた、設定の変更のしかたについて説明します。

BIOS セットアップを起動する

- 1** それまでパソコンで行っていた作業を終了します。
必要に応じてデータを保存し、アプリケーションを終了してください。
- 2** 「スタート」ボタン 「Windows の終了」の順にクリックします。
- 3** 「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
パソコンが再起動します。
- 4** 画面下に
「<F2> : BIOS セットアップ <F12> : 起動メニュー」と表示されている間に、**[F2]** を押します。
BIOS セットアップのメインメニューが表示されます。



POINT

- ▶ BIOS セットアップを始められないときは
Windows98 が起動してしまうと、BIOS セットアップを始められません。
Windows98 が完全に起動するのを待ってから、もう一度手順 2 ~ 4 の操作を行ってください。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1 **[↑] [↓]** を押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。



- 2 設定を変更したいメニューが黄色で表示されていることを確認し、**[Enter]** を押します。

詳細設定項目を表示するときは、**[F8]** を押してから **[Enter]** を押します。

POINT

- ▶ 本章の画面の中で、斜体表示されている項目は詳細設定項目です。通常は表示されません。
通常は、詳細設定画面の設定を変更する必要はありません。

3 を押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。

▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。

▶の付いている項目にカーソルを合わせて を押すと、サブメニューが表示されます。



(画面は一例です)

4 を押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、 を押してメインメニューに戻り、手順 1 から繰り返します。

サブメニューを表示していた場合は、 を押すと 1 つ前の画面に戻ります。

項目の中には、数値を入力するものもあります。詳しくは BIOS 画面のヘルプをご覧ください。

POINT

▶ 誤って変更してしまった設定を前回保存したときの設定に戻すことができます。ただし、変更した設定をいったん保存した場合は、保存した設定に戻ります。

1 「終了」メニューを表示させます。

2 「変更前の値を読み込む」を選び、 を押します。

「変更前の値を読み込みますか?」というメッセージが表示されます。

3 「はい」を選び、 を押します。

設定が、前回保存したときの値に戻ります。

保存した設定をご購入時の状態に戻すには、「[ご購入時の設定に戻す](#)」([P.98](#))をご覧ください。

BIOS セットアップを終了するときは、「[BIOS セットアップを終了する](#)」([P.96](#))をご覧ください。

各キーの役割

[Esc]	前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニューに戻ります。サブメニュー やヘルプが表示されているときは、各メニューに戻ります。 メインメニューが表示されているときは、BIOS セットアップを終了するメッセージが表示されます。
[Enter]	▶が付いている項目のサブメニューを表示します。または、設定を選択します。
[↑] [↓]	設定するメニュー や項目、設定にカーソルを移動します。
[←] [→]	設定を変更します。
[F5]	BIOS セットアップ画面の表示を英語、または日本語に切り替えます。
[F8]	メインメニューで押すと、詳細設定項目が表示されます。 もう一度 [F8] を押すと表示は消えます。
[Alt] + [H]	このキーを押したときの画面上で使えるキーと、そのキーの役割について表示されます。 [Esc] を押すと表示は消えます。

BIOS セットアップを終了する

- 各メニューの設定を終了し、**[Esc]** を押してメインメニューを表示させます。
- [←] [→]** を押して、「終了」にカーソルを合わせます。



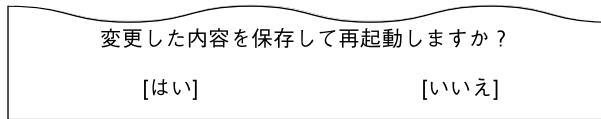
3 **[Enter]** を押します。



4 次のいずれかの操作を行います。

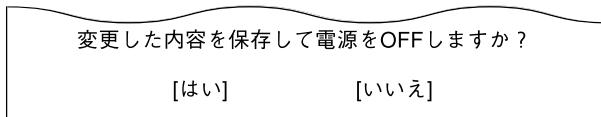
- 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

[↑] [↓] を押して、「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。



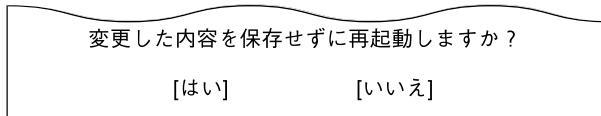
- 設定を保存して BIOS セットアップを終了し、このパソコンの電源を切る場合

[↑] [↓] を押して、「変更を保存して終了する（電源 OFF）」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。



- 設定を保存しないで BIOS セットアップを終了し、Windows98 を起動する場合

[↑] [↓] を押して、「変更を保存せずに終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、**[Enter]** を押します。次のメッセージが表示されます。



5 **[←] [→]** を押して、「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）、**[Enter]** を押します。

BIOS セットアップが終了します。

3 ご購入時の設定に戻す

BIOS セットアップの設定をご購入時の状態（標準設定値）に戻す方法は次のとおりです。

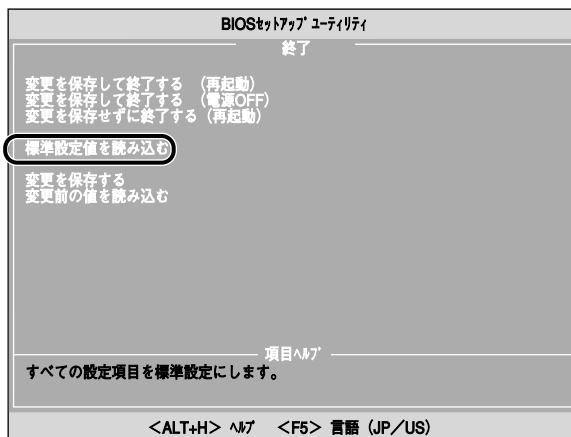
- 1 メインメニューが表示されていないときは、[Esc] を押してメインメニューを表示させます。

BIOS セットアップを起動していない場合は、「[BIOS セットアップを起動する](#)」(P.93) をご覧になり、BIOS セットアップを起動してください。

- 2 を押して、「終了」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。



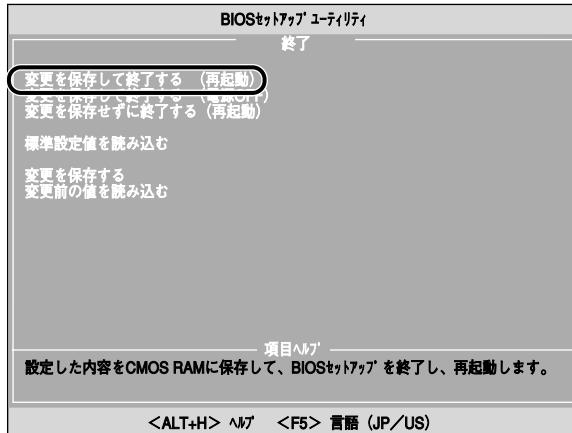
- 3 を押して、「標準設定値を読み込む」にカーソルを合わせ、[Enter] を押します。



- 4** を押して、「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）
[Enter] を押します。



- 5** を押して、「変更を保存して終了する（再起動）」にカーソルを合わせ、
[Enter] を押します。



- 6** を押して、「はい」にカーソルを合わせ（水色で表示されている状態）
[Enter] を押します。



BIOS セットアップが終了し、Windows98 が起動します。

4 BIOS のパスワード機能を使う

このパソコンでは、特定の人だけが起動や BIOS セットアップを行えるように、パスワードを設定することができます。

ここでは、パスワードの設定方法や変更方法などについて説明します。

パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- 管理者用パスワード

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。

設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

- ユーザー用パスワード

特定の人だけが、このパソコンを使えるようにするためのパスワードです。

設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

このパスワードで BIOS セットアップを起動した場合は、システム日付、システム時刻、ユーザーパスワードのみ変更できます。

パスワードを設定する

管理者用パスワード、ユーザー用パスワードを設定する方法を説明します。

重要

- ▶ ユーザー用パスワードを設定するときは管理者用パスワードを設定してください。
ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

1 BIOS セットアップを起動します。

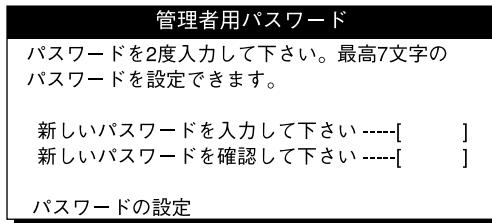
起動のしかたについては、「[BIOS セットアップを起動する](#)」(▶ P93)をご覧ください。

2 を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、 を押します。

3 を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。

4 を押します。

パスワードを入力するウィンドウが表示されます。

**5** パスワードを入力します。

入力できる文字はアルファベットと数字です。最高 7 文字までなら何文字でもかまいません。

入力した文字は表示されず、代わりに「*」が表示されます。

POINT

- ▶ テンキーで数字を入力するには を押して、数字を入力できる（NumLock インジケータが点灯している）状態にしてください。

6 を押します。

カーソルが「新しいパスワードを確認して下さい。」の項目に移ります。

7 手順 5 で入力したパスワードをもう一度入力し、 を押します。**8** を押します。

設定値が「設定済み」になります。

再入力したパスワードが、手順 5 で入力したものと違っていた場合は、メッセージが表示されます。 を押して、手順 5 から操作し直してください。

9 続いてユーザー用パスワードを設定する場合は、手順 3 ~ 8 を繰り返します。**10** 設定内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。

終了のしかたについては、「[BIOS セットアップを終了する](#)」(P.96)をご覧ください。

パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、次に電源を入れたとき、または BIOS セットアップを始めるときに、次の画面が表示されます。



設定したパスワードを入力し、[Enter] を押してください。

☞ 重要

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「不正確なパスワードが入力されました。システムは使用できません。」というメッセージが表示されて、パソコンが停止します。その場合は、電源スイッチを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

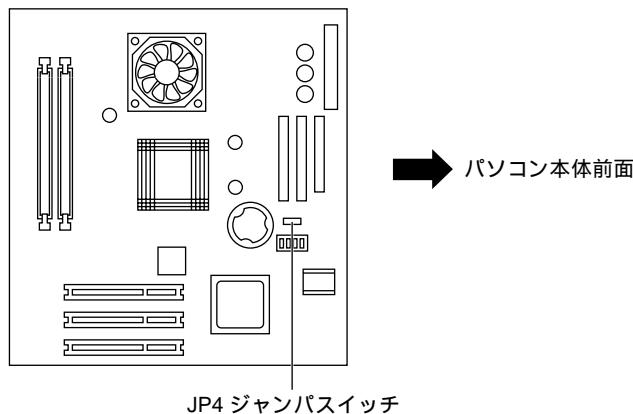
パスワードを忘れてしまったら

設定したパスワードを忘れてしまい、BIOS セットアップや起動ができなくなった場合は、パソコン本体内部の JP4 ジャンパスイッチを「1-2 番」に設定してください。

パスワードチェックが解除され、BIOS セットアップや起動ができるようになります。

ジャンパスイッチの位置

JP4 ジャンパスイッチの位置は、次のとおりです。



ジャンパスイッチを変更する

△ 警告



- ジャンパスイッチを変更するときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電・火災または故障の原因となります。

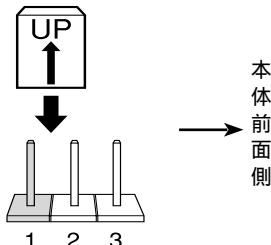
△ 注意



- 基板表面上の突起物には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

1 「本体カバーを取り外す」([…▶P.38](#))をご覧になり、本体カバーを取り外します。

2 JP4 ジャンパスイッチを「2-3 番」から「1-2 番」に変更します。
このパソコンのご購入時は、「2-3 番」に設定されています。



3 「本体カバーを取り付ける」([…▶P.39](#))をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

4 BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」([…▶P.93](#))

5 パスワードを削除します。
「パスワードを削除する」([…▶P.104](#))

6 「本体カバーを取り外す」([…▶P.38](#))をご覧になり、本体カバーを取り外します。

7 JP4 ジャンパスイッチを「1-2 番」から「2-3 番」に戻します。

8 「本体カバーを取り付ける」([…▶P.39](#))をご覧になり、本体カバーを取り付けます。

パスワードを変更／削除する

パスワードを変更する

重要

- 管理者用パスワードを変更すると、ユーザー用パスワードも一緒に削除されます。

- BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」(▶ P.93)
- ↑ ↓ を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、Enter を押します。
- ↑ ↓ を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。
- ← → を押して、設定を「未設定」に戻します。
- もう一度 ← → を押して、パスワード入力用のウィンドウを表示させます。
- 新しいパスワードを入力します。
パスワードが新しくなります。
- 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。
「BIOS セットアップを終了する」(▶ P.96)

パスワードを削除する

重要

- 管理者用パスワードを削除すると、ユーザー用パスワードも一緒に削除されます。
- ユーザー用パスワードを削除すると、管理者用パスワードでしか、BIOS セットアップおよび OS が起動できなくなります。

- BIOS セットアップを起動します。
「BIOS セットアップを起動する」(▶ P.93)
- ↑ ↓ を押して、「システム管理」にカーソルを合わせ、Enter を押します。
- ↑ ↓ を押して、「管理者用パスワード」または「ユーザー用パスワード」にカーソルを合わせます。
- ← → を押して、設定を「未設定」に戻します。
- 設定内容を保存して BIOS セットアップを終了します。
「BIOS セットアップを終了する」(▶ P.96)

5 BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、このパソコンが表示するエラーメッセージ（BIOS メッセージ）について説明しています。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

次の「メッセージ一覧」をご覧になり、次のいずれかの方法でエラーを解消してください。

- BIOS セットアップの設定を変更する

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたときは、BIOS セットアップを起動して、エラー項目の設定が正しいか確認してください。

また、BIOS セットアップの設定を標準設定値に戻してください。

「[ご購入時の設定に戻す](#)」（[P.98](#)）

- 周辺機器の取り付けを確認する

別売の周辺機器の拡張カードやメモリ、ハードディスクなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、IRQ（割り込み要求）などの設定が正しくされているかも確認してください。このとき、周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。

上記の方法で対処してもエラーメッセージが表示される場合、または次の「[メッセージ一覧](#)」に当てはまるメッセージがない場合は、このパソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

次のメッセージが表示されると、このパソコンが停止します。指示に従って対処してください。

POINT

- ▶ 電源を切るときは、電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、このパソコンの電源を切ってください。スタンバイランプがオレンジ色に点灯しているときは、もう一度電源スイッチを 4 秒以上押し続けて、このパソコンの電源を切ってください。

その後、必ずこのパソコンの電源ランプが消えていることを確認してください。

- メモリーエラーです。XXXX:YYYY:ZZZZh(R:xxxxh,W:yyyyh)

Memory Error at XXXX:YYYY:ZZZZh(R:xxxxh,W:yyyyh)

パソコンの電源を切り、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。

正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- キーボードエラーです。または、キーボードが接続されていません。

Keyboard Error or Not Connected

パソコンの電源を切り、キーボードが正しく接続されているか確認してください。
正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- 装置の設定エラーです。

Equipment Configuration Error

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- フロッピーディスクコントローラのエラーです。

Floppy Disk Controller Error

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- フロッピーディスク A のエラーです。

Floppy Drive A Error

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- IDE プライマリマスターのエラーです。

IDE Primary Channel Master Drive Error

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- IDE セカンダリマスターのエラーです。

IDE Secondary Channel Master Drive Error

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- CPU BIOS 更新コードが不一致です。

CPU BIOS Update Code Mismatch

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- CPU クロックが不一致です。

CPU Clock Mismatch

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「[ご購入時の設定に戻す](#)」([P.98](#)) の操作を行ってください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- リアルタイムクロックのエラーです。

Real Time Clock Error

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「[ご購入時の設定に戻す](#)」([P.98](#)) の操作を行ってください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- CMOS バッテリが損傷しています。

システム CMOS のチェックサムが正しくありません。

CMOS Battery Bad

CMOS Checksum Error

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「ご購入時の設定に戻す」([P.98](#)) の操作を行ってください。

それでも本メッセージが表示される場合は、バッテリの交換が必要です。弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- I/O アドレスが競合しています。

I/O Resource Conflict(s)

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、このパソコンを再起動してください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- メモリのリソースが競合しています。

Memory Resource Conflict(s)

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、このパソコンを再起動してください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- IRQ 設定のエラーです。

IRQ Setting Error

[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、「PnP/PCI」メニューで「リソース (ESCD) の初期化」を「はい」に設定して、このパソコンを再起動してください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- 拡張 ROM の割り当てに失敗しました。

Expansion ROM Allocation Failed

このパソコンの電源を切り、増設した拡張カードが正しく取り付けられているか確認し、もう一度このパソコンの電源を入れてください。

それでも本メッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- シリアルポート 1 のリソースが競合しています。

Onboard Serial Port 1 Conflict(s)

増設した拡張カードとこのパソコンのシリアルポート 1 のリソースが競合しています。

増設した拡張カードのリソースを変更するか、**[F2]** を押して BIOS セットアップを起動し、「内蔵デバイス」メニューで「シリアルポート」のリソースを変更してください。

- パラレルポートのリソースが競合しています。

Onboard Parallel Port Conflict(s)

増設した拡張カードとこのパソコンのパラレルポートのリソースが競合しています。

増設した拡張カードのリソースを変更するか、**[F2]** を押して BIOS セットアップを起動し、「内蔵デバイス」メニューで「パラレルポート」のリソースを変更してください。

- システムディスクをセットし、<Enter>キーを押してください。

Insert system diskette and press Enter key to reboot

弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- PS/2 キーボードのエラーです。

PS/2 Keyboard Interface Error

パソコンの電源を切り、PS/2 キーボードが正しく接続されているか確認してください。

正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- PS/2 マウスのエラーです。

PS/2 Pointing Device Error

パソコンの電源を切り、PS/2 マウスが正しく接続されているか確認してください。

正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- PS/2 マウスのエラーです。

PS/2 Pointing Device Interface Error

パソコンの電源を切り、PS/2 マウスが正しく接続されているか確認してください。

正しく取り付けられているときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- Non system disk or disk error

Replace and press any key when ready

フロッピーディスクドライブに、システム以外のフロッピーディスクをセットしたまま電源を入れると表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、何かキーを押してください。

第4章

技術情報

4

パソコンのお手入れ方法などについて説明しています。

1 ハードウェアのお手入れ 110

1 ハードウェアのお手入れ

ここではパソコンを快適にお使いいただくために、パソコンのお手入れのしかたを説明します。

お手入れのしかたは、ディスプレイ、マウス、フロッピーディスクドライブなど、各部によって異なります。それぞれの部分にあったお手入れをしてください。

⚠ 警告



- お手入れを行うときは、パソコン本体、ディスプレイおよび接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
接続されている機器を、パソコン本体から取り外してください。

⚠ 重要

- ▶ シンナーやベンジンなどの揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。
アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使わないでください。
ディスプレイの画面部分は、ガーゼなどの柔らかい布で拭いてください。

パソコン本体／ディスプレイ／キーボード／スピーカーのお手入れ

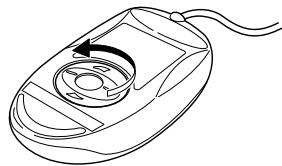
パソコン本体の通風孔（…▶P.11）にほこりがたまらないよう、定期的に清掃してください。汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどいときは、水または中性洗剤を含ませた布を固く絞って、拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また拭き取るときは、パソコン本体やディスプレイ、キーボード、スピーカーに水が入らないよう十分注意してください。

マウスのお手入れ

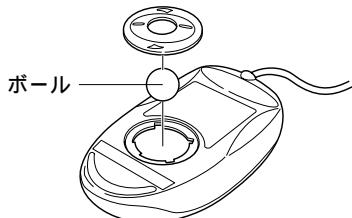
表面の汚れは、乾いた布か、または水か中性洗剤を含ませた布で軽く拭き取ってください。中性洗剤を使って拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って、中性洗剤を拭き取ってください。また、マウスの裏にあるボールが汚れていると、すべりが悪くなります。マウスのボールは、マウスから取り外してクリーニングできます。ボールのクリーニング方法は次のとおりです。

- 1 マウスの裏プラグを、矢印の方向に回して取り外します。



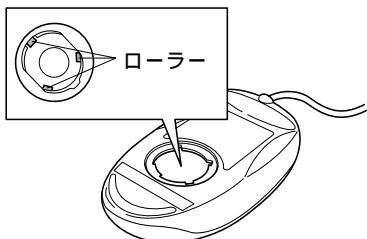
- 2 ボールを取り出して、水または中性洗剤で洗います。

洗ったあと、乾いた布でよく拭いて十分に乾かしてください。



- 3 マウス内部の汚れを拭き取ります。

水に浸して固く絞った布で、マウス内部および裏プラグを拭きます。
ローラー部分は水で湿らせた綿棒などで拭いてください。



POINT

- ▶ ゴミは完全に取り除いてください。ローラー部分にゴミがたまると、マウスが正常に動かない原因となることがあります。

- 4 ボールをマウスに戻し、裏プラグを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクは長い期間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部分）が汚れてしまいます。ヘッドが汚ると、データを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーをご購入になり、3ヶ月に1回はクリーニングを行ってください。

用意するもの

商品名：クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号：0212116（富士通コワーコ株式会社取り扱い品 お問い合わせ：03-3342-5375）

お手入れのしかた

△ 注意



- クリーニングフロッピーをセットまたは取り出すときには、フロッピーディスクドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1** 「スタート」ボタン 「プログラム」 「MS-DOS プロンプト」の順にクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「C:¥WINDOWS>」に続けて次のように入力し、[Enter] を押します。
c:¥fjuty¥clndsk 0
「clndsk」と「0（数字のゼロ）」の間は、[]（空白キー）を1回押してください。
- 3** クリーニングフロッピーをセットし、[Enter] を押します。
「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示され、クリーニングがはじまります。
しばらくすると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 4** フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 5** 「MS-DOS プロンプト」ウィンドウの [x] をクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウを全画面表示しているときは、「exit」と入力し、[Enter] を押してください。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが閉じます。

索引

記号

3.5 インチ内蔵ベイ	12
- に内蔵ハードディスクを取り付ける	62
5 インチフロントアクセスベイ	9, 12
- に周辺機器を取り付ける	83
- に内蔵ハードディスクを取り付ける	65
A	
ATAPI	12, 88
B	
BIOS セットアップ	92
- のパスワード機能を使う	100
- メッセージ一覧	105
- を起動する	93
- をご購入時の設定に戻す	98
- を終了する	96
BUSY ランプ	9
C	
CD-R/RW ドライブ	8, 12
CD-ROM ドライブ	8, 12
CMOS RAM	92
D	
DIMM	43
E	
ECC	43
EJECT ボタン	9
F	
FAX モデムカード	51

I

IDE	12, 56
-----------	--------

L

LAN カード	51
LINE IN 端子	10
LINE OUT 端子	10
LINE 端子	11

M

MIDI/JOYSTICK 端子	11
MO	87
MO ドライブ	87

P

PCI	52
PHONE 端子	11
PIAFS	34

S

SCSI	56, 87
SCSI カード	51, 53, 58
SCSI ケーブル	58
SDRAM	43
SPD	43

T

TWAIN	29
-------------	----

U

Ultra DMA/33	57, 69
USB 機器	31
USB ケーブル	24, 27, 29, 31, 34
USB コネクタ	10
USB 変換ケーブル	26

あ

アクセス表示ランプ	9
インレット	11
エラーメッセージ	105
お手入れ	
キーボード	110
スピーカー	110
ディスプレイ	110
パソコン本体	110
フロッピーディスクドライブ	112
マウス	111

か

解像度	17
- を変更する	18
拡張カード	51
- LAN カード	51
- SCSI カード	51
- の大きさ	52
- ビデオキャプチャカード	51
- モデムカード	51
- を取り付ける	53
拡張スロット	12, 52
各部の名称と働き	8
画面	17
キーボード	13
- のお手入れ	110
キーボードコネクタ	10
キャッシュメモリ	42
クリック	16
ケーブルセレクト	68

さ

システムバスロック	43
ジャンパスイッチ	102
終端抵抗	59, 72, 87
周辺機器	22, 83, 87
シリアルコネクタ	10
スキャナ	29
- を接続する	29
スクロールボタン	16
スタンバイランプ	9
スピーカーのお手入れ	110
スペースキー	14
スレーブ	68

スロットカバー	54
---------	----

増設する

- 拡張カード	51
- ハードディスク	56
- メモリ	42

外付けハードディスクを取り付ける	56
------------------	----

た

ターミナルアダプタ	33
ターミネータ	59, 72, 87
チルトフット	15
通風孔	11, 12
ディスプレイコネクタ	11
ディスプレイのお手入れ	110
デジタルカメラ	27
テンキー	14
電源スイッチ	9
電源ユニット	12
電源ランプ	9
取り付ける	
- 拡張カード	52
- 外付けハードディスク	56
- 内蔵ハードディスク	60
- フロントパネル	41
- 本体カバー	39
- メモリ	44
取り外す	
- フロントパネル	40
- 本体カバー	38

な

内蔵ハードディスク	12, 60
- を取り付ける	60

は

ハードディスク

- 増設時のドライブ名の割り当て	79
- の領域設定の手順	74
- の領域を削除する	77
- の領域を設定する	73
- を増設する	56
- をフォーマットする	79

パスワード	100
- を忘れてしまったら	102

パソコン本体	8, 10, 12
- のお手入れ	110
発色数	17
- を変更する	18
パラレルコネクタ	11
光磁気ディスク	87
左ボタン	16
ビデオキャプチャカード	51
プリンタケーブル	24
プリンタを接続する	24
フロッピーディスクアクセス表示	
ランプ	9
フロッピーディスクドライブ	9, 12
- のお手入れ	112
フロッピーディスク取り出しボタン	9
フロントパネル	
-を取り付ける	41
-を取り外す	40
ヘッドホン端子	9
ヘッドホンボリューム	9
本体力バー	37
-を取り付ける	39
-を取り外す	38

ま

マイク端子	10
マウス	16
- のお手入れ	111
マウスコネクタ	10
マスター	68
マルチモニタ機能	88, 89
右クリック	16
右ボタン	16
メモリ	42
- の組み合わせ	43
- の取り付け場所	42
- の持ちかた	44
- 容量を確認する	47
- を交換する	48
- を取り付ける	44
- を増やす	42
メモリスロット	12
モデムカード	51

ら

領域

- を削除する	77
- を設定する	73

わ

ワンタッチボタン	13
----------	----

FMV-DESKPOWER ME4/535R、ME4/535、ME4/535P

ハードウェアガイド
B5FH-0031-02-00

発行日 2000年5月

発行責任 富士通株式会社

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

無断転載を禁じます。